

ネパール国
教育省

ネパール国
小学校運営改善支援プロジェクト
プロジェクト事業完了報告書

平成23年2月
(2011年2月)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

株式会社国際開発センター (IDCJ)

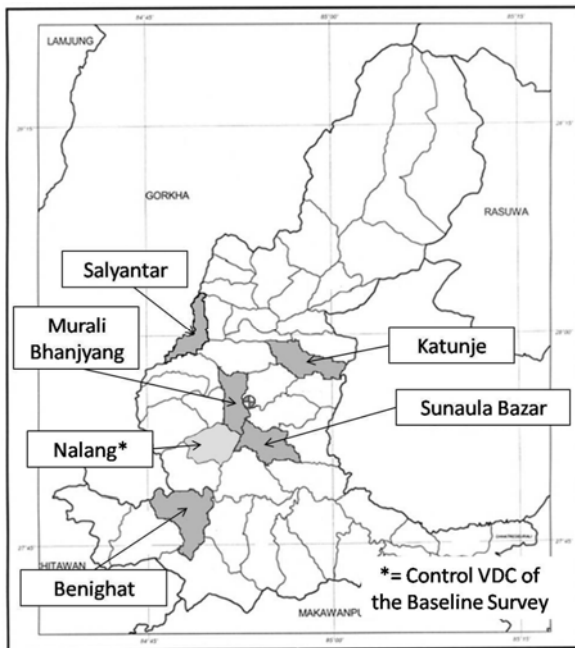
プロジェクト位置図

- SISIM パイロット郡：ダディン郡及びラスワ郡 -

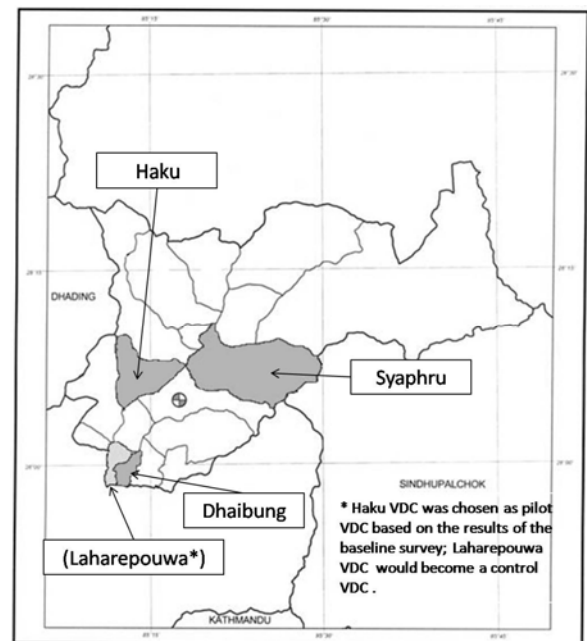


注：上記地図は実際の縮尺を反映しない。

ダディン郡内のパイロット VDC



ラスワ郡内のパイロット VDC



注：上記地図は実際の縮尺を反映しない。

写真：第1年次（2008年2月～2008年10月）



写真1：キックオフ・ワークショップ
（教育局、2008年4月）



写真2：第1回年次レビュー会合
（ARM会合）（教育局、2008年7月）



写真3：郡レベル指導員研修
（ダディン郡、2008年6月）



写真4：郡レベル指導員研修
（ラスワ郡、2008年6月）



写真5：RCレベル指導員研修
（ラスワ郡、2008年6月）



写真6：DEPオリエンテーション
（ラスワ郡、2008年9月）

写真：第2年次（2009年11月～2009年10月）



写真7：SIP オリエンテーション
（ラスワ郡、2009年4月）



写真8：CP 本邦研修
（島根県松江市、2009年4月）



写真9：SMC/SIP 研修
（ダディン郡、2009年7月）



写真10：SMC/SIP 研修
（ラスワ郡、2009年7月）



写真11：RC レベル指導員研修
（ダディン郡、2009年8月）



写真12：成果普及ネットワーク・ワークショップ（ラリトプル、2009年9月）

写真：第3年次（2010年11月～2011年2月）



写真 13：中央リージョン向け研修ガイド
(TG) 普及ワークショップ
(教育局、2009年12月)



写真 14：CP 第三国研修（インドネシア）
(ジョグジャカルタ、2010年6月)



写真 15：ノンパイロット校での SMC/SIP
研修（ダディン郡、2010年7月）



写真 16：JICA 終了時評価のヒアリング調
査（ラスワ郡、2010年11月）



写真 17：CP 本邦研修
(東京、2010年12月)



写真 18：第2回成果普及
ネットワーク・ワークショップ
(ラリトプル、2011年2月)

略 語

ASIP:	Annual Strategic and Improvement Plan (年次戦略・活動計画)
CASP:	Community-based Alternative Schooling Project (子どものためのコミュニティ主体型ノンフォーマル教育プロジェクト)
DDC:	District Development Committee (郡開発委員会)
DEC:	District Education Committee (郡教育委員会)
DEO:	District Education Office (郡教育事務所)
DEP:	District Education Plan (郡教育計画)
DoE:	Department of Education (教育局)
ECED:	Early Childhood Educational Development (就学前教育)
EFA:	Education for All (万民に教育を)
EMIS:	Education Management Information System (教育管理情報システム)
GER:	Gross Enrollment Rate (粗就学率)
HT:	Head Teacher (校長)
JICA:	Japan International Cooperation Agency (独立行政法人国際協力機構)
MoE:	Ministry of Education (教育省)
NER:	Net Enrollment Rate (純就学率)
NGO:	Non-government Organization (非政府組織)
NRs:	Nepalese Rupees (ネパール・ルピー)
PDM:	Project Design Matrix (プロジェクト・デザイン・マトリックス)
PTA:	Parents and Teachers Association (保護者教員組合、PTA)
RC:	Resource Center (リソース・センター)
RP:	Resource Person (リソース・パーソン)
SHNP:	School Health and Nutrition Project (学校保健栄養改善プロジェクト)
SIP:	School Improvement Plan (学校改善計画)
SISM:	The Support for Improvement of Primary School Management (Project) (小学校運営改善支援プロジェクト)
SMC:	School Management Committee (学校運営委員会)
SO:	Section Officer (セクション・オフィサー)
SS:	School Supervisor (スクール・スーパーバイザー)
SSRP:	School Sector Reform Plan (学校セクター改革計画)
ToT:	Training of Trainers (指導員研修)
VEC:	Village Education Committee (村落教育委員会)
VEP:	Village Education Plan (村落教育計画)
VDC:	Village Development Committee (村落開発委員会)

交換レート (2011年2月現在)

USD1.00 = ¥82.16 / NRs1.00 = ¥1.132

ネパール国小学校運営改善支援プロジェクト

事業完了報告書

平成 23 年 2 月

目 次

位置図
写 真
略 語

第 1 章	プロジェクトの概要	1
1.1	背 景.....	1
1.2	目 的.....	2
1.3	基本方針.....	3
1.4	対象グループ.....	4
1.5	実施体制.....	6
1.6	プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）改訂.....	7
第 2 章	投入、活動、成果	8
2.1	投入.....	8
2.2	活動及び成果.....	10
2.3	SISM プロジェクトで作成した成果品（資料、マニュアル等）.....	11
2.4	セクター・プログラム（SSRP）への貢献.....	12
2.5	他案件との連携.....	12
2.6	モニタリング・評価.....	13
2.7	広報.....	13
第 3 章	学校／SMC の能力向上	15
3.1	研修ニーズの確認.....	15

3.2	SIP オリエンテーション	15
3.3	アプレイザル導入	17
3.4	SMC/PTA 研修	17
3.5	SIP 年次計画作成	21
3.6	ノンパイロット校に対する SMC/SIP 研修	22
3.7	パイロット校において SIP に沿った活動実施	24
3.8	今後実施が必要なフォローアップ活動	25
第 4 章	郡教育事務所能力強化	27
4.1	VEP 及び DEP の現状確認	27
4.2	VEP オリエンテーション	27
4.3	VEP ワークショップと VEP 作成・更新	28
4.4	VEP/DEP 更新	29
4.5	VEP レビュー及び更新ワークショップ	30
4.6	DEP レビュー	31
第 5 章	SISM モデルの普及へ向けて	33
5.1	政策提言の作成	33
5.2	ネパール側関係者のコメント	36
5.3	SISM モデルの普及のために	37

添付資料

添付資料 1 :	PDM の変遷（改訂後 PDM、当初 PDM、PDM 改訂の理由）	A-1
添付資料 2 :	業務実施スケジュール（計画・実績）	A-13
添付資料 3 :	SISM の活動・成果一覧	A-15
添付資料 4 :	SISM の対象グループと活動内容.....	A-18
添付資料 5 :	SISM で作成した成果品リスト.....	A-19
添付資料 6 :	投入実績 1－専門家派遣実績（メンバーリスト及び人月表）	A-20
添付資料 7 :	投入実績 2－カウンターパート（CP）リスト	A-24
添付資料 8 :	投入実績 3－CP 研修実施実績.....	A-25
添付資料 9 :	投入実績 4－モニタリング・評価.....	A-26
添付資料 10 :	投入実績 5－JICA 関連事業との連携実績.....	A-27
添付資料 11 :	投入実績 6－現地業務費実績.....	A-28
添付資料 12 :	投入実績 7－現地 NGO 再委託業務内容	A-29
添付資料 13 :	投入実績 8－供与機材実績.....	A-31
添付資料 14 :	相手国との会議議事録（ARM との会合の概要、最終会合議事録）	A-32
添付資料 15 :	収集資料リスト.....	A-42

表目次

表 1 :	ネパール全国の初等教育（1 年生～5 年生）指標	2
表 2 :	SISM プロジェクトの要約.....	2
表 3 :	SISM プロジェクトの対象グループの概要.....	5
表 4 :	パイロット郡・パイロット VDC における学校数.....	5
表 5 :	SISM コンポーネントの活動と成果.....	10
表 6 :	学校運営改善に当たった課題と方策	15
表 7 :	SMC/PTA 研修の主な活動.....	18
表 8 :	SMC/PTA 研修後に見られたプラスの変化	19

図目次

図 1 :	SISM プロジェクトの実施体制.....	6
図 2 :	SMC/SIP 研修の実施手順.....	23
図 3 :	Process of the SIP Updating/Writing of the SISM Project.....	29

第1章 プロジェクトの概要

1.1 背景

ネパール政府は、国家開発計画の一環として、教育に力を入れ、特に、初等教育の機会の確保及び質の改善に尽力してきた。中でも、「万人のための教育 (Education for All : EFA) プログラム (2004年～2009年)」を実施する上で、教育行政の地方分権化及び住民参加による学校運営を、初等教育改善のための重要戦略として位置づけた。その具体的な手段として、各学校に地域住民代表によって組織された学校運営委員会 (SMC) を設置し、SMC を中心に学校改善計画 (SIP) を策定し、SIP に基いて住民参加によって学校運営を改善するしくみが導入された。

ネパール政府の方針に従って、全ての公立学校が SMC を設置した。SMC では、SIP を作成し、SIP に基づいて学校運営が行われたが、実際は、十分に機能していない SMC が数多く存在し、SIP の多くは現場ニーズを反映しない形式だけ整えた「実行に移すためのものではない計画」であった。ネパール政府による様々な努力にもかかわらず、学校レベル及び地域レベルにおいて適当な人材や技術力が整備されていないために住民参加による学校運営はうまく機能しなかった。こうした地方分権化や学校運営改善の動きが、かえって学校ごとまたは地域ごとの格差を拡大し、就学率や中退率改善の阻害要因となっているのではないかという疑問の声もあがった。

こうした状況を改善するため、ネパール政府は、学校運営及び郡レベルでの教育行政の能力向上を図るため、日本政府に技術協力による支援を要請した。これを受けて、JICA では、2007年に二度にわたる事前調査を実施し、ネパール国教育スポーツ省 (当時) と独立行政法人国際協力機構 (JICA) は、2007年8月3日及び2007年10月17日に、それぞれの事前評価調査結果を踏まえた協議議事録に合意の上、署名した。

同協議議事録に基づいて、2008年2月26日から、ネパール国小学校運営改善支援プロジェクト (the Support for Improvement of Primary School Management) (以降、「SISM プロジェクト」) が、正式に開始された。SISM プロジェクトは、2008年2月26日から2011年2月25日までの3年間に亘って実施された。

ネパールの国全体の2007年の教育指標を表1に示す。初等教育 (1年生～5年生) をカバーする学校は全国に29,220校あり、約4,419千人の子どもたちが通っていた。初等教育1年生の粗就学率 (GER) は138.5% (女子139.6%、男子137.6%)、同純就学率 (NER) は89.1% (女子87.4%、男子90.7%) であった。初等教育 (1年生～5年生) の留年率及び中退率が高く、初等教育のアクセス及び質の双方からの改善が必要とされていた。

表 1 : ネパール全国の初等教育（1年生～5年生）指標（2007/2008年）

教育指標	ネパール国全体
初等教育をカバーする学校数（教育局登録校）	29,220 校
初等教育の就学者数合計	4,418,713 人
初等教育の粗就学率（GER） Gross Enrollment Rate (GER) at the primary level (Grade 1-5)	合計： 138.5 女子： 139.6 男子： 137.6
初等教育の純就学率（NER）	合計： 89.1 女子： 87.4 男子： 90.7
初等教育の留年率	合計： 17.2 女子： 17.3 男子： 17.0
初等教育の中退率	合計： 12.4 女子： 12.0 男子： 12.8

（出所：教育局「Flash I Report 2064 (2007/08)」、2007年12月）

1.2 目的

SISM プロジェクトの目標（プロジェクトの要約）と主要指標は、表 2 に示すとおりであった。

表 2 : SISM プロジェクトの要約

プロジェクトの要約
上位目標：プロジェクト対象地域における初等教育の就学率及び中退率が改善する。
プロジェクト目標：プロジェクト対象地域において、住民参加及び政府の支援により学校運営が改善される。
期待される成果： 成果 1： 住民参加による SMC の学校運営能力が向上する。 成果 2： DDC、VDC、DEO が技術・財政面で学校ベースのマネジメントを支援する能力が改善される。 成果 3： 教育・スポーツ省（MoES）、教育局（DoE）が全国的に最低限の教育の質の確保を達成するために採用すべき措置（施策、基準）についての提言が策定される。

1.3 基本方針

SISM プロジェクトを進めるにあたって、以下を基本方針とした。

(1) 既存のものの活用し、活性化する。

ネパールの教育分野にはすでに教育省やドナーによって多くの仕組みやマニュアルが持ち込まれていた。このため、SISM では、さらに新しい仕組みや手法を持ち込むのではなく、既存のものをレビューして、学校や郡レベルで使いやすく整理し、簡素化して、活用しやすくすることとした。例えば、学校運営委員会 (SMC) や PTA の役割の明確化と活性化、学校改善計画 (SIP) や学校自己査定ツール (SSA) の簡素化と学校運営改善における活用など。

(2) 学校運営における学校改善計画 (SIP)の役割に注目する。

学校運営改善に当たっては、教育省の指示に従ってほぼ全校が作成しているにもかかわらず、ほとんど使われていない「SIP」に注目した。「SIP が複雑な構成で、作成が難しいこと」を改善するため、簡素化を目指した。「校長が一人で作成する」という現状から、コミュニティとともに課題を明らかにして、解決策を話し合いながら作成する機会を創設し、コミュニティの間に「自分たちで作った自分たちの SIP」というオーナーシップを強化した。また、低予算や予算なしで実施できる活動を SIP に盛り込むことで、「学校改善＝施設改善なので、資金がなければ何もできない」という従来の考え方から脱却してもらった。

(3) 実体験による学びを通して、郡教育事務所に学校支援人材を育成する。

学校運営改善を進めるには、郡教育事務所のスクール・スーパーバイザー (SS) やリソース・センター (RC) のリソース・パーソン (RP) による学校への技術支援が重要であったが、SS や RP は自分たちの役割を理解していないことが多く、また SIP の意義を理解していない者も多かった。彼らをより引き込むため、郡レベル指導員研修で養成して、RC レベル指導員研修のファシリテーターを務めてもらい、また、各学校の SIP 更新や実施活動をモニタリング・指導してもらった。研修で学び、さらに RC レベルや学校レベルに対して指導するという実体験を通して、自分たちの役割と責任を理解してもらおうという方法をとった。

(4) 計画づくりや研修だけでなく、「アクション」を重視する。

ネパールの人々は、中央の政策レベル、郡レベル、学校やコミュニティレベルでも、計画作成や議論はするが、行動に移すことは得意ではないとされていた。SISM では、SIP や VDC 教育計画 (VEP) 及び郡教育計画 (DEP) 等の計画作成能力について研修を行うだけでなく、実際に計画を作成することを支援した。さらに学校レ

ベルでは、「自分たちで作成した自分たちの SIP」を実施することを支援するために、SMC 及び PTA でアクションに移すための必要事項を研修に盛り込むとともに、SS や RP、パートナー NGO による技術支援、モニタリング体制を強化した。

(5) 教育局、郡教育行政、学校をつなぐ。

中央教育行政から郡教育行政へは一方向的な命令系統のみ存在する。中央から郡レベルに対して、各種活動や予算の指示が出されるが、その活動の意義や郡教育行政の果たす役割は説明されず、中央レベルからは郡での達成度や予算執行状況に関するモニタリングは行われていなかった。また、学校現場の現状やニーズは中央教育行政にはほとんど伝えられない状況にあった。SMC や SIP に関する能力強化の活動を展開する上で、中央での政策作成、郡教育行政の計画作成や実施体制づくり、学校における具体的な活動をつなぐためのネットワークの強化を心がけた。

1.4 対象グループ

SISM プロジェクトは、ネパール全国 75 郡のうち、ダディン郡とラスワ郡の 2 郡をパイロット郡とした。これは、2006 年 11 月にネパール政府とマオイストの間で和平合意がなされたものの、SISM プロジェクトの事前評価時の 2007 年にはまだ地方では一部安全確認ができない場所があったこと、パイロット活動を行う上ではある程度アクセスが容易な場所を選定する必要があったことなどが両郡の選定基準となった。また、ラスワ郡は、当時作成準備が進められていた次のセクター・プログラム「学校セクター改革計画 (SSRP)」のパイロット郡 3 郡の 1 つであったことも選定の理由となった。

各パイロット郡内の全 VDC を対象とするのではパイロットの対象として大きすぎるため、パイロット VDC (ダディン郡は 5VDC、ラスワ郡は 5VDC) を選定して活動を展開した。両郡併せて 8 つのパイロット VDC 内の公立学校をパイロット校とした。パイロット郡 2 郡の位置図は、報告書巻頭資料の地図 1 に、パイロット郡内のパイロット VDC の位置図は地図 2 及び地図 3 に示す。

ダディン郡の 5 つのパイロット VDC (ベニガット、カトンジェ、ムラリバンジャン、サルヤンタル、スナウラバザール) に 68 校、ラスワ郡の 3 つのパイロット VDC (ダイブン、ハク、シャフル) に 24 校で、両郡併せて合計 92 校のパイロット校を対象とした。なお、SISM プロジェクト第 3 年次では、これら 92 校に加えて、ダディン郡 520 校、ラスワ郡 82 校のノン・パイロット校も対象に SMC/SIP 研修実施を支援した。これで、SISM は両郡の公立学校全てに働きかけを行ったこととなった。

表 3 に SISM プロジェクトの対象グループの概要を、表 4 にパイロット郡・パイロット VDC における学校数 (パイロット校数) を示す。

表 3 : SISM プロジェクトの対象グループの概要

パイロット郡	郡レベル	VDC レベル	学校/コミュニティ・レベル
ダディン郡	<ul style="list-style-type: none"> - 郡教育オフィサー (DEO) - セクション・オフィサー (SO) - スクール・スーパーバイザー (SS) : 10 名 - リソース・パーソン (RP) : 20 名 	5つのパイロット VDC <ul style="list-style-type: none"> - ベニガット - カトンジェ - ムラリバンジャ - サルヤンタル - スナウラバザール 	<ul style="list-style-type: none"> - パイロット校=5 つのパイロット VDC にある 68 校の公立学校 - ノンパイロット校=残り 45 のノンパイロット VDC にある 520 校の公立学校
ラスワ郡	<ul style="list-style-type: none"> - DEO - SO - SS : 1 名 - RPs : 8 名 	3つのパイロット VDC <ul style="list-style-type: none"> - ダイブン - ハク - シャフル 	<ul style="list-style-type: none"> - パイロット校=3 つのパイロット VDC にある 24 校の公立学校 - ノンパイロット校=残り 15 のノンパイロット VDC にある 82 校の公立学校

(出所 : SISM プロジェクト・チームにより作成)

表 4 : パイロット郡・パイロット VDC における学校数 (2009/2010 年)

VDC 名	RC 名	教育レベル				学校数合計	就学率合計
		初等教育 (1~5 年生) のみカバーする学校	基礎教育 (1~8 年生) をカバーする学校	中等養育まで (1~10 年生) をカバーする学校	後期中等教育まで (1~12 年生) をカバーする学校		
(1) ダディン郡の 5 つのパイロット VDC							
ベニガット	ベニガット	13 校	2 校	1 校	2 校	18 校	3,366 校
カトンジェ	カトンジェ	10	0	1	1	12	1,709
ムラリバンジャン	ムラリバンジャン	9	1	1	1	12	2,418
サルヤンタル	サルヤンタル	3	3	2	1	9	2,636
スナウラバザール	スナウラバザール	14	1	0	2	17	2,507
5つのパイロット VDC 計	--	49	7	6	6	68	12,636
ダディン郡の計	20 RCs	407	82	75	38	602	108,848
(2) ラスワ郡の 3 つのパイロット VDC							
ダイブン	ダイブン	8 校	0 校	2 校	1 校	11 校	2,118 校
ハク	ハク	6	1	0	0	7	701
シャフル	シャフル	3	2	1	0	6	725
3つのパイロット VDC 計	--	17	3	3	1	24	3,544
ラスワ郡の計	8 RCs	77	19	11	4	111	13,819

(出所 : 教育局「Flash I Report 2066 (2009-2010)」、2009 年 11 月)

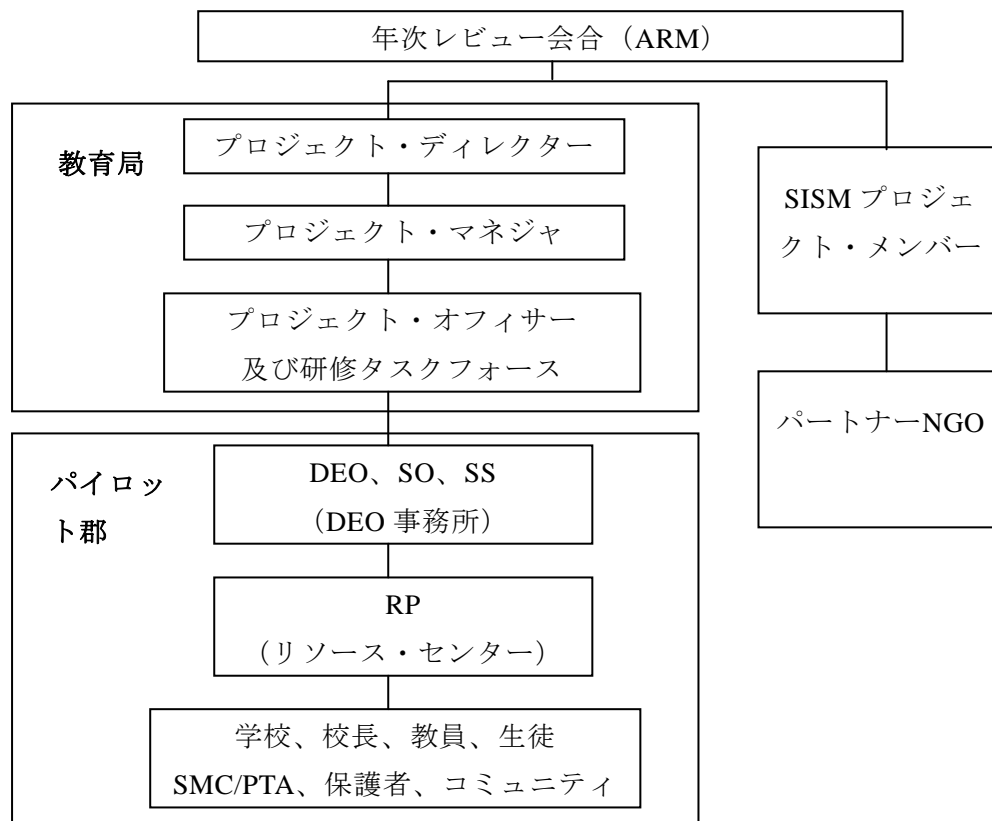
1.5 実施体制

SISM プロジェクトの意思決定機関として、教育局内に年次レビュー会合（ARM）が設置された。ARM 会合の議長は教育局局長が務め、定例会合がほぼ 6 カ月に 1 回開催され、SISM プロジェクトの進捗と次期の活動計画が協議された。

3 年間の SISM プロジェクト期間中に 6 回の ARM 会合が開催された。それぞれの会合の実施時期、主な議題、ARM 最終会合（第 6 回会合）の議事録を添付資料 14 に掲載する。第 1 回から第 5 回までの ARM 会合議事録は各事業進捗報告書の添付資料として掲載しているので、ご覧いただきたい。

ARM の下に、教育局の 5、6 名の行政官からなる研修タスクフォース（TTC）が設置された。TTF では、指導員研修やワークショップのプログラム作成、実施、モニタリングを担当した。

郡レベルでは、進捗報告・情報共有と次期計画について協議するために、隔月会合が定期的に行われた。SISM プロジェクトの実施体制を図 1 に示す。



(出所：SISM プロジェクト・チームにより作成)

図 1：SISM プロジェクトの実施体制

1.6 プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）改訂

2009年5月にJICA中間レビュー・ミッションから、PDMについて、指標を見直して対象グループや指標定義を明確にすることが必要であるとの提言がなされた。この提言に基づいて、教育局カウンターパートとSISMプロジェクト・チームで改訂作業を進め、2009年10月20日のAMR会合で改訂案が承認された。

改訂版PDM、当初PDM、PDM改訂の理由を添付資料1に示す。

第2章 投入、活動、成果

2.1 投入

(1) 教育局カウンターパート

教育局局長をプロジェクト・ディレクターとし、プロジェクト・マネージャ、プロジェクト・オフィサー、研修タスクフォース、各パイロット郡の郡教育オフィサー等がカウンターパートとして配置された。人事異動などによる交替も見られたが、異動後も、中央または郡レベルの教育行政に携わるケースがほとんどであり、SISM プロジェクトのインプットの損失とはならなかった。

プロジェクト・ディレクター及びプロジェクト・マネージャを中心に、SISM プロジェクト・チームに対する信頼関係が築け、プロジェクト活動と成果への興味と関心、そして積極的な支援が得られた。こうした関係が築けたのは、日本人専門家が教育局の意思決定を尊重し彼らの考えを活かせるように工夫したことに加え、ナショナル・スタッフが教育局カウンターパートと適切にコミュニケーションをとり、情報共有を重視したことに寄ると考える。

カウンターパート・リストを添付資料7に示す。また、カウンターパートに対して実施された本邦研修2回（2009年2月及び2010年12月）、第三国研修（インドネシア）（2010年5月）の実績概要を添付資料8に示す。

(2) SISM プロジェクト・チーム

SISM プロジェクトは、JICA と株式会社国際開発センターの間に締結された業務委託計画に基づいて派遣されたプロジェクト・チームによって実施された。プロジェクト・チームは、総括／教育行政、地方教育行政／財政、学校運営、モニタリング・評価、業務調整の担当から構成され、全体で56.06人月（第1年次13.60人月、19.73人月、22.73人月）の日本人専門家の投入があった。

SISM プロジェクト・チームには、日本人専門家に加えて、ナショナル・スタッフ5名（ナショナル・プロジェクト・コーディネーター、教育行政／研修オフィサー、秘書、IT コーディネーター／事務所アシスタント、ドライバー）が配置された。

日本人専門家及びナショナル・スタッフのメンバーリスト及び日本人専門家の年度ごとの配置状況（人月表）を添付資料6に示す。

(3) パートナーNGO

パイロット郡の RC レベル、VDC レベル、及び学校／SMC レベルの活動は、パートナーNGO によって実施された（SISM プロジェクト・チームとの再委託契約）。ダディン郡は Aasaman Nepal が、ラスワ郡は SEARCH-Nepal が担当した。両パートナーNGO とも、学校／SMC との活動を効果的に行えるように、それぞれのコミュニティからコミュニティ・モビライザーを選出・育成した。

パートナーNGO の主な担当業務は、i) ベースライン調査及びエンドライン調査のデータ収集、ii) RC レベル研修の実施支援、iii) SIP オリエンテーション、SMC/PTA 研修等、学校／SMC レベルで行われる研修・ワークショップの実施支援、iv) SIP 実施支援、v) SS/RP によるモニタリング支援等であった。

パートナーNGO のメンバー及びコミュニティ・モビライザーのリスト、再委託業務内容を添付資料 12 に示す。

(4) 事業費

SISM プロジェクトの 3 年間に、JICA からはプロジェクト運営費約 57.2 百万ルピー（NRs）、車両・資機材等購入費 3.3 百万ルピーが提供された。合計額は 60.5 百万ルピーであった。ネパール政府側からは、ノンパイロット校研修のための RC レベル指導員研修費用として約 1.0 百万ルピーが提供されたが、具体的な金額は明確にされていない。JICA 側からの現地業務費実績を添付資料 11 に示す。

(5) 供与機材リスト

SISM プロジェクト遂行のために、i) パイロットプロジェクトでの活動をモニタリングするために 4 輪駆動車及びデジタル・カメラ等、ii) 研修用資料等を作成するためにコピー機・スキャナ等の複合機、デスクトップ・コンピュータ等、iii) パイロット郡等と密接なコミュニケーションをとるために携帯電話等の通信機器等が整備された。

iv) ラスワ郡教育事務所¹にはパイロット校モニタリングのためにモーターバイク 1 台が、v) ダディン郡及びラスワ郡の教育事務所にはデータ収集・整理のためにラップトップ・コンピュータ 1 台ずつ（停電が多いためデスクトップ・コンピュータは不向き）が、プロジェクト期間中にそれぞれ相手国機関に設置された。

SISM プロジェクト期間終了後、これらのプロジェクト機材は、プロジェクト成果の普及を継続的に行うために、2 月初めに JICA から教育局に供与された。

¹ ダディン郡には、先行して行われた CASP からモーターバイクがすでに供与されていたため、SISM ではラスワ郡に対してのみ供与した。

2.2 活動及び成果

SISM では、学校／SMC の能力向上（コンポーネントⅠ）、郡教育行政の能力向上（コンポーネントⅡ）、政策提言の作成（コンポーネントⅢ）の3つのコンポーネントから成る活動を行った。各コンポーネントの主な活動と成果を表5に示し、添付資料3に追加データを示す。

表5：SISM コンポーネントの活動と成果

活動	期間	内容
学校／SMC の能力向上（コンポーネントⅠ）		
第1回 RC レベル指導員研修	第1バッチ：2008年6月 第2バッチ：2009年1月・2月	パイロット校92校のそれぞれの代表4名に対する指導員研修（5日間）、
第2回 RC レベル指導員研修（SMC/PTA 研修向け）	2009年8月・9月	各パイロット校（92校）の代表4名ずつに対する再研修（3日間）
ノンパイロット校に対する RC レベル指導員研修（教育局予算で実施）	2010年5月～7月	各ノンパイロット校（602校）の2名ずつ選ばれた RC レベル指導員への研修（3日間）
SIP オリエンテーション	第1バッチ：2008年8月 第2バッチ：2009年2月・3月	パイロット校92校を対象としたオリエンテーション（3日間）
SIP 更新フォローアップ及びアプレイザル	2009年2月～9月	SS 及び RP による指導及びモニタリング
SMC/PTA 研修	2009年12月～2010年3月	SMC の学校運営能力向上のための研修（3日間）
SIP 更新のフォローアップと SIP 年次計画作成	2010年6月・7月	SIP 年次計画作成に関して、SS/RP による指導と活動モニタリング
ノンパイロット校における SMC/SIP 研修	2010年7月～10月	各ノンパイロット校において学校運営に関する研修実施（2日間）
郡教育行政の能力向上（コンポーネントⅡ）		
第1回郡レベル指導員研修	2008年6月	DEO、SS、RP に対する指導員研修（5日間）
第2回郡レベル指導員研修	2008年12月	DEO、SS、RP に対する指導員再研修（4日間）
第3回郡レベル指導員研修（SMC/PTA 研修向け）	2009年8月	郡レベル指導員再研修（1.5日間）
第4回郡レベル指導員研修	2010年5月・6月	郡レベル指導員に対する再研修（2日間）
情報交換ワークショップ（スタディ・ツアー）	2010年1月	マクワンプール郡及びチトワン郡を訪問して、両郡教育事務所及び学校関係者との情報・経験交換（5日間）

活動	期間	内容
学校保健栄養改善プロジェクト（JICA 支援）のパイロット郡に対する郡レベル指導員研修	2010年2月	シヤンジャ郡及びシンドパルチョーク郡の郡教育オフィサー、SS/RP に対する研修（5日間）
DEP オリエンテーション	2008年9月	DEP 更新及び実施をどのように強化するかについて協議するワークショップを実施（2.5日間）
DEP プロファイリング・ワークショップ	2009年4月	DEP のデータ・セクションを作成するためのワークショップ（2日間）
DEP 更新ワークショップ	2009年5月	DEP の計画策定セクションに関するワークショップ（2.5日間）
VEP オリエンテーション	第1バッチ：2008年9月 第2バッチ：2009年1月・2月	VEP の役割・内容について協議するワークショップを実施（3日間）
VEP ワークショップ	第1バッチ：2009年1月・3月 第2バッチ：2009年4月・5月	VEP の作成方法について協議し、VEP 作成のためのアクション・プランを作成するワークショップを実施（3日間）
VEP レビュー及び年次活動計画作成ワークショップ	2010年6月～9月	VDC レベルで教育関係者が VEP 及び SIP を共有（1日間）
政策提言の作成（コンポーネントⅢ）		
政策提言Ⅰの作成	2010年6月	政策提言Ⅰ
ドナー調整会合、SIP 会合等での SISM 成果の発表	2010年11月～2011年2月	教育省、教育局、他ドナー、国際／ネパール NGO からの理解・支援、SISM 成果の普及
政策提言Ⅱの作成	2011年1月	政策提言Ⅱ

（出所：SISM プロジェクト・チームにより作成）

2.3 SISM プロジェクトで作成した成果品（資料、マニュアル等）

SISM プロジェクトでは、2009年9月に SMC/PTA 研修の手法・手順・留意点などを示した研修ガイド（TG）を作成し、3000部をコピー・製本した。同 TG は、パイロット郡の全 SS/RP、全国 75 郡の郡教育事務所等に配布するとともに、リージョンごとに実施した TG 普及ワークショップも開催し、配布した。また、教育局ウェブ・サイトからのダウンロードも可能である。同研修ガイドは、3年間の経験に沿って 2011年1月に改訂され、第2版として 1000部をコピー・製本した。

その他、ベースライン調査報告書、エンドライン調査報告書、6か月ごとの進捗報告書、政策提言Ⅰ及びⅡなどが成果品として作成・提出された。SISM で作成した成果品リストを添付資料 5 に示す。

2.4 セクター・プログラム（SSRP）への貢献

教育省では、現在 ワーキング・グループを設置して、中央・地方教育行政の能力向上計画（CD 計画）を作成中である（2011 年 2 月現在）。教育省、教育局、他ドナーの関係者の間では、地方の教育現場の現状、学校運営改善に関する学校及び SMC のニーズ等が理解されていないことから、SISM プロジェクトの経験や成果を彼らと共有することは、CD 計画作成に有益と考えられる。SISM プロジェクトの成果を CD 計画に反映させることは、CD 計画をより実質的なものとするためにも、SISM 成果の持続性を高める上でも重要である。

このため、SISM の経験と成果を活用して SIP をツールとした SMC の能力強化及び学校運営強化を目指すように、教育省、教育局、他ドナー、国際 NGO に対して働きかけを行うこととした。SISM では、SISM モデルのコンセプトや成果などについて、ドナー調整会合などの機会に発言した。

教育省は、2010 年 11 月末に国際及びネパール NGO とともに SIP 関連の経験を共有して SISM の成果を発表するための SIP 会合を開催した。また、SISM 終了時の 2011 年 2 月初めには、教育省内の会議室において省内関係部署と SISM の成果を共有するための会合を開いた。どちらの会合においても、SISM メンバーからプロジェクトの概要、成果、今後の進め方について発表を行った。

2.5 他案件との連携

SISM より先行して行われていた「子どものためのコミュニティ主体型ノンフォーマル教育プロジェクト（CASP）」をはじめ、「万人のための教育」支援のための小学校建設計画（フェーズⅡ）、「学校保健栄養改善プロジェクト（SHNP）」、「コミュニティへの働きかけを通じた公立小学校教育の質の改善」等と、さまざまな場面で、他の JICA 支援プロジェクトと協力を行った。

2010 年 2 月には、SHNP とは、SHNP パイロット郡のシャンジャ郡・シンドパルチョーク郡の郡教育事務所メンバーに対して、郡レベル指導員研修を協働して行った。2011 年 2 月現在、引き続き、SHNP のステークホルダーのニーズに合わせて 2 回目の郡レベル指導員研修を行うべく、SHNP と SISM の間で協議が行われた。

教育分野で活躍する JOCV 及びシニア・ボランティアは数多いことから、学校レベルの経験・情報を共有して、彼らとも協力できるように留意した。

JICA 支援の他案件との連携実績は、添付資料 10 の表にとりまとめた。

2.6 モニタリング・評価

SISM プロジェクトでは、プロジェクトの進捗を明らかにして必要があれば活動計画を修正するために、ネパール側のステークホルダーのプロジェクトに対する関心を高め、技術移転（学び）の機会とするために、内部中間評価及び内部終了時評価を行い、それぞれ報告書を作成した。

内部中間評価の結果は JICA 中間レビューにおいて、内部終了時評価は JICA 終了時評価において、それぞれ基礎資料として活用された。

SISM におけるモニタリング・評価の実施状況を添付資料 9 に示す。

2.7 広報

SISM プロジェクトでは、SISM の活動に対して広く理解と支援を得て、成果の普及を進めるために、様々な広報活動を実施した。主な広報活動としては、以下が挙げられる。

(1) SISM ウェブ・サイト

2009 年 3 月より開始。www.sism.org.np のサイトへは、2011 年 1 月までに約 1,200 のアクセス（ヒット数）があった。SISM の活動情報や写真が掲載され、報告書・ガイド等のダウンロードが可能。

SISM では、SISM の成果を長く使ってもらうために、プロジェクト期間終了後も、1 年間ウェブを継続する予定である。

(2) ニュースレター

4 カ月に 1 回程度、SISM ニュースレター（英語、ネパール語）を作成し、SISM のステークホルダーに広く配布した。ニュースレターは、上記 SISM ウェブ・ページでも公開した。

(3) SISM カレンダーおよび郡教育活動カレンダー

SISM では、ネパール教育年度に合わせて（4 月中旬～次の 4 月中旬）、SISM 活動を紹介するカレンダーを発行し、パイロット郡内の各学校に加えて、RC、DEO、VDC、DDC 等に配布した。

また、郡教育事務所による教育活動カレンダーづくりを支援した。郡教育事務所のカレンダーには、普通のカレンダーに加えて、郡ごとに行われる研修、試験、その他各種活動が示され、祝日・夏休みの日程等も示される。同カレンダーは、郡内の各学校、VDC、RC、CBO 等に配布された。

(4) TV での活動紹介及び SISM 紹介 DVD 作成：

SISM の学校レベルでの活動、中央での成果普及及びネットワーキングの状況を広く伝えるために、ネパールのビデオ製作会社（A One Vision）に再委託して、テレビ・プログラムを収録し、ネパール・テレビで放映した。

また、これらのテレビ・プログラム用に収録した部分に、SISM プロジェクトの説明スライドと主要関係者に対するインタビューを追加して、SISM 紹介 DVD（20 分程度）を作成（200 部のコピー）し、関係者に広く配布した。DVD はネパール語で作成し、英語の翻訳文を画面下にサブタイトルで入れた。

第3章 学校／SMC の能力向上

3.1 研修ニーズの確認

学校／SMC との活動を本格的に始めるにあたって、SMC 及び SIP の現状を把握し、課題を抽出して、その方策を検討した。主な課題と改善のための方策を表 6 に示す。

表 6：学校運営改善に当たっての課題と方策

主な課題	改善のための方策
(1) SIP 作成のタイトなスケジュール	教育局によって、DEP 作成期限が当初の 2009 年 2 月から 6 月に延期されたため、SIP 更新日程に余裕がでた。ただし、3 月 4 月は学年末であり、休みもあるため決して十分な時間があるわけではない。
(2) 未整備なモニタリング体制	郡教育事務所は、SIP 審査委員会を設置し、SIP のモニタリングと審査を行う。SISM プロジェクトとパートナー NGO が技術面で支援する。
(3) SS、RP、SMC の SIP 更新のための知識・能力不足	郡レベル指導員再研修で、第 1 年次更新した SIP をレビューし、実例を用いた研修を行う。また、研修用ガイドラインを準備し、RC レベル指導員研修の質を確保する。
(4) SS や RP の低いオーナーシップ	RC レベル指導員研修でのファシリテーターである SS や RP、SIP オリエンテーションでの学校代表（RC レベル指導員研修対象者）の役割を増やす。また、彼らとともにガイドラインを作成・改善することも、オーナーシップ強化に有益。
(5) 複雑な SIP フォーマット	SIP フォーマットに、SS 及び RP からのコメントや助言を反映させて改訂する。特に、データ部分と計画部分のつながりが明確となるよう、分析のステップを意識できる構成とする。
(6) データ部分と計画部分のつながりがないこと	住民参加用のツール（学校自己評価チェックリストやリソース・マッピング）を改善するとともに、これらのツールを用いて得られたニーズや優先度の分析結果を、計画策定にどのように反映すべきかを明示する。

（出所：SISM プロジェクト・チームにより作成）

3.2 SIP オリエンテーション

各パイロット校のステークホルダーに住民参加のアプローチで学校運営を改善する際の SIP の目的や学校・SMC・住民の役割を理解してもらい、SIP 更新を進めることの合意を得るために、学校運営改善の最初の活動として SIP オリエンテーションを開催した。

SIP オリエンテーションでは、1) 学校レベルのステークホルダーに SISM を紹介する、2) 学校運営改善における SMC と SIP の重要性と役割を理解してもらう、3) 既存の SIP

をレビューし、SIP 更新の最初のステップである学校の現状分析を行う、4) SIP 改訂のポイントや改訂方法について合意を得るための活動を実施した。VDC ごとに、4 名～5 名の SS と RP で構成されるタスクフォースを結成し、それぞれの対象地域を担当する SS のリードの下、SIP オリエンテーションのモニタリングと技術支援が行われた。

個々の SIP オリエンテーションには、SMC メンバー4 名、PTA 及び保護者 5 名、教師代表 2 名、女性 4 名、生徒代表 5 名、若者 2 名、地域の NGO または組織代表 2 名、VDC 代表 1 名等の 25 名が参加することを想定していたが、実施してみると、各 SIP オリエンテーションには予定以上のステークホルダーが参加した。参加者数は合計 1,437 名で、SIP オリエンテーション 1 回当たり 30 名が参加者した。

RC レベル指導員研修で研修を受けた各学校の指導員チーム、SS、RP、パートナーNGO が協力して、SIP オリエンテーションを実施した。多くの地域住民が SIP オリエンテーションに参加し、SIP 更新技術やツールの活用方法を学んだ。また、SIP オリエンテーションは、地域住民が自分たちの学校について話し合う場となった。自分たちの学校について皆で話し合うことは、多くの住民にとって初めての経験であった。

第 2 年次には、SIP オリエンテーションのプログラム内容を、学校運営や学校改善について参加者に考えてもらうためにデザインを工夫した。学校訪問、校長からの学校データに関するプレゼンテーション、リソース・マッピング、学校自己評価等のツールを活用して、教師や子供たち、保護者、SMC、PTA が、それまで気付かなかった、あるいは話し合うことのなかった学校の問題点、自分たちの役割、地域の資源、自分たちの学校を改善するための優先課題等を明らかにしていった。SIP オリエンテーションを通して、地域住民からの SIP と SISM に対する理解を深めることができた。

各学校は、計画づくりを担当する SIP 作成委員会を結成し、SIP 更新に当たって、誰が何を担当し、いつ実施するかを具体的に示したアクション・プランを作成した。2009 年 4 月の新教育年度が始まるまでに SIP を完成し DEO に提出することを目指した。

SIP オリエンテーションを通して得られた教訓は以下の通りであった。

- 1) TG を作成したことで、ファシリテーターが均一の情報を参加者に伝えることができるようになった。
- 2) 学校レベル指導員チーム（RC 指導員研修参加者）と SS、RP、パートナーNGO の協力体制は SIP オリエンテーション実施に有益であった。
- 3) 学校レベル指導員チームは、一部 SS や RP、パートナーNGO の技術支援を受けながらも、研修教材の多くを自分たちで作成し、ファシリテーションを行った。これによって、彼らの SIP オリエンテーションに対するオーナーシップが強化された。

- 4) **SS、RP**は、学校レベル指導員チームのファシリテーション能力強化に貢献した。また、**SS、RP**の中には、初めて担当校を訪問する者もいて、彼らにとってもよい機会を提供することとなった。
- 5) 学校訪問・視察と、各学校の校長からデータ提供を受けたことは有益であった。校長からは、未就学児童、中退者、生徒の学習到達度等に関するデータが報告され、参加者は改めて学校の現状を知ることとなった。ただし、学校訪問時のチェックリストや校長が発表する学校データのフォーマットは複雑な構成であって、簡素化することが必要である。
- 6) 3日間の **SIP** オリエンテーションは、**SIP** 作成のプロセスを理解するために有益である。しかし、オリエンテーション実施後に、**DEO** 及び **SISM** 側から、継続的にフォローアップを行うことが、**SIP** 更新のプロセスや質を改善していくためには重要である。

3.3 アプレイザル導入

SIP アプレイザルでは、1) 地域住民が今後 5 年間（2009/10～2013/14）をカバーする **SIP** 更新プロセスを支援し、2) **DEO** の **SS** や **RP** のリーダーシップやオーナーシップを強化し、彼らから学校へのフィードバックを通して **SIP** の質を向上させることを目指した。PTA 会合のような大規模会合の機会を利用して、各学校の **SMC** や **SIP** 作成委員会は、保護者や生徒、女性グループ、社会的弱者を含む住民メンバーとのコンサルテーションを行った。

ダディンとラスワの **DEO** は、3 人から 5 人のメンバーで構成される **SIP** アプレイザル委員会を設置し、対象 **RC** の担当 **SS** が委員長を務めることとした。**SIP** アプレイザル委員会が進める **SIP** アプレイザルの手順は、まず、各学校が **SIP** 原稿を **RC** に提出する。**RC** はすべての対象校から **SIP** を受け取った後、**SIP** アプレイザル委員会との会合を持ち、**SISM** プロジェクトで作成した **SIP** 審査シートに基づいてチェックする。委員会は、**SIP** をレビューした後、書面でフィードバックを各学校に送る。**SMC** では、アプレイザル委員会からのコメントに基づいて **SIP** を修正し、最終的に **SMC** の承認を受ける。**SMC** は **SIP** のコピーを少なくとも 7 部作成し、**DEO**、**RC**、**DDC**、**VDC**、**SISM** 等に配布する。

以上がアプレイザルの手順である。**SIP** アプレイザルは 4 月末までに終了し、各 **DEO** に提出されることが必要とされる。

3.4 **SMC/PTA** 研修

2009 年 12 月から 2010 年 3 月にかけて、ダディン郡の全パイロット校 69 校、ラスワの全パイロット校 24 校が 3 日間の **SMC/PTA** 研修を実施した。第 2 年次の後半に実施した **RC** レベル指導員研修で研修を受けた **SMC** 委員長、校長、女性メンバー、PTA 会長

等が、SMC/PTA 研修の主ファシリテーターを務めた。郡教育事務所の SS/RP は、各校で実施される研修のモニタリングを行い、SISM のパートナー NGO とともに、適宜、指導または技術支援を行った。SISM チームのメンバーも一部研修のモニタリングを行った。SMC/PTA 研修の目的は以下の通りであった。

- (1) 学校運営における SMC および PTA の役割と責任を共有し、理解する。
- (2) 教育省の政策を説明し、教育行政で用いるツール（ソーシャル・オーディット・フォーマットなど）を紹介する。
- (3) 各校の現状を分析して、改善が必要な分野について共通の認識を持つ。
- (4) チャイルド・フレンドリー・スクールについて理解を深める。
- (5) SIP の実施状況を確認し、今後の SIP 実施、モニタリング、更新のための計画を作成する。

SMC/PTA 研修は、第 1 年次及び第 2 年次に実施した SIP オリエンテーションや SIP 更新ワークショップに比較して、研修の質の面で改善がみられた。主な理由は、SMC メンバーのファシリテーション技術、SS および RP の指導力が向上し、研修ガイド (TG) の更新も効果的であったと思われる。TG の作成に当たっては、パイロット研修でドラフトを作成し、RC レベル指導員研修及び郡レベル指導員研修で参加者からのコメントに基づいて修正を加えて最終原稿を作成した。

SMC/PTA 研修の主な研修内容を表 7 に示す。

表 7：SMC/PTA 研修の主な活動

	主な活動
1 日目	教育省の政策紹介と各学校の現状理解 (1) 出席簿のデータ分析 (2) SIP のデータ分析 (3) 学校及び近隣校の達成状況とベスト・プラクティス (4) 学校観察 (点検) (5) 学校のセルフ・アセスメント
2 日目	SMC、PTA、保護者、生徒の役割と責任 教育法に示された役割と責任とセルフ・アセスメント 学校運営改善のための教育省によるツール紹介 (1) ソーシャル・オーディット (Social Auditing) の紹介と協議 (2) 学校評価 (School Accreditation) の紹介と協議 (3) 行動規範 (Code of Conduct) に関する協議
3 日目	チャイルド・フレンドリー・スクール SIP 実施状況の確認 DEO (可能であれば、VDC、DDC) の教育予算に関する報告 今後のアクション・プラン作成 研修評価、閉会

(出所：SISM プロジェクト・チーム作成)

SMC/PTA 研修は、各コミュニティと SISM プロジェクトの理解と信頼を深めることに役立った。学校レベルの指導員（各校 4 名）チームが、SS や RP、パートナー NGO と協力して研修を行うというアプローチをとったことで、学校ごとのステークホルダーによる研修に対するオーナーシップが高まり、研修が効果的に行われた。参加者は、自分たちの学校の現状を分析し、改善策を検討することに積極的に参加した。多くの参加者にとって、今回の SMC/PTA 研修は、学校運営に関する自分たちの役割や責任について話し合う初めての機会であった。

SMC/PTA 研修において、出席簿の分析や SIP 及び EMIS データの分析、ベスト・プラクティスの共有、スクール・セルフ・アセスメントなどを行うことによって、参加者は自分たちの学校の現状、役割、責任、改善策などを理解することができた。ラスワ郡ダイブン VDC のマナカマナ小学校の SMC 委員長は、SMC/PTA 研修前後の変化を表 8 のように報告してくれた。

表 8 : SMC/PTA 研修後に見られたプラスの変化

SMC/PTA 研修前	SMC/PTA 研修後
<ul style="list-style-type: none"> - 学校および学校の活動について、関心が低かった。 - 学校の真のメンバーとしては活動していなかった。 - SIP および SIP 作成プロセスをあまり理解していなかった。 - 学校運営全般について PTA が重要な役割を果たすべきであることを理解していなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> - 保護者および住民が、学校関連のさまざまな活動について話し合うようになった。 - SMC と PTA のメンバーが、自分たちの役割や責任を果たすようになってきた。今では SMC の定期会合を持ち、SIP の実施について話し合うようになった。 - SMC/PTA 会合で、SIP の実施状況について定期的に確認するようになった。 - PTA が活性化された。

(出所：ラスワ郡ダイブン VDC のマナカマナ小学校の SMC 委員長の報告)

SMC/PTA 研修において、参加者は次年度の計画作成について検討した。SMC と PTA の役割が異なることから、別々に会合を持つことの必要性も協議された。SIP 更新時と今回の SMC/PTA 研修の両方の機会に学校自己査定 (SSA) について話し合ったことで、SIP に計画した活動の実施状況が理解され、SIP を用いて学校運営することの有効性を学ぶことができた。女性参加者やダリットの参加者からは、SMC/PTA 研修に参加することで、自分たちの役割や責任に気づき、SMC/PTA の意思決定プロセスに参加するために必要な知識を得ることができたと感謝の意が伝えられた。

SMC/PTA 研修を通して得られた留意点は以下の通り。

- (1) 大部分の学校で多くの参加者が得られたが、一部の学校では研修 1 日目の参加者が半数以下のところがあった。SMC/PTA との事前打合せを開催するなどして、関係者の参加を促し、研修運営を改善することが必要である。
- (2) 学校によっては教員数が非常に少なかったり、研修施設が教室しかなかったりしたために、研修のために授業が行えなかったというところがあった。研修は重要であるが、そのために授業が中止されることは避けなくてはならない。SS、RP、パートナーNGO は事前に話し合っ、授業に影響を与えない研修時間（早朝など）や研修期間（休日など）に研修を行うことを検討すべきであった。
- (3) 各学校は研修終了時にはアクション・プランを作成した。郡教育事務所および SISM プロジェクト・チームは、このアクション・プランが実施につながるようにフォローアップを行うことが必要である。

また、今回の SMC/PTA 研修で得られた教訓は以下の通りである。

- (1) 研修を実施・運営する役割と責任を SMC に持たせることで、学校レベルのステークホルダーによる研修に対するオーナーシップを高めることが可能となった。
- (2) ファシリテーターによっては TG をテキストのように活用するなど、TG が役立った。研修プログラムは、学校レベルのステークホルダーの学校運営に対する理解を深めるために有益であった。
- (3) SMC、PTA、住民リーダー、生徒代表を集めて彼らの役割や責任を話し合うことはこれまでほとんど行われてきていなかったが、彼らの理解を深め啓発することに役立った。
- (4) SMC/PTA 研修を行うことによって、SMC や PTA メンバー、住民、生徒の学校運営への参加を拡大することができた。
- (5) 出席簿の分析、学校セルフ・アセスメントは、学校の現状を視覚化して理解することに役立った。研修参加者によって、学校運営のソフト面改善のためのアクション・プランが作成された。アクション・プランには、生徒の出席状況の改善、SMC/PTA による学校モニタリングなどが含まれた。
- (6) SMC/PTA の役割と責任に関する自己査定を実施することによって、使命感および説明責任に対する理解に改善がみられた。
- (7) 教育政策及び学校自己査定（SSA）を説明する際に、A0 サイズの拡大コピーを活用することで、参加者の理解を高めることに役立った。
- (8) RC レベル指導員研修を行ってから SMC/PTA 研修を実施するまでに 1 カ月から 2 ヶ月の期間があったため、一部の RC レベル指導員には指導力の低下がみられた。カスケード方式で研修を行う場合は、指導員研修実施からできるだけ早い時期に研修を行うことが望まれる。

3.5 SIP 年次計画作成

SISM では、SIP をローリング・プランとしたのでは各学校への負担が大きすぎるため、5カ年の中期計画である SIP に基づいて、毎年、年次計画を作成することを提案し、SIP 年次計画フォーマットを作成した。以後、郡教育事務所及びパイロット校からのフィードバックを反映してフォーマットを改訂し、パイロット郡内のパイロット校、ノンパイロット校合わせて約 700 校に SIP 年次計画フォーマットを配布した。同フォーマットの作成・更新方法については、RC レベル指導員研修において SS、RP から指導が行われた。

2010 年 6 月から 7 月にかけて、パイロット校 88 校で SIP 年次計画作成のためのワークショップ（1 日間）を実施した。同ワークショップには、SIP の 5 カ年計画を作成した時と同様に、SMC 及び PTA メンバー、学校長、教員、保護者、住民リーダーなど 25 人～40 人が参加し、学校の現状と次期教育年度（単年度）の活動計画について検討を行った。SS、RP、パートナー NGO が技術支援を行ったが、多くの学校の SMC リーダーや校長は、これまでの SISM の研修経験を通して、住民参加のもと、SIP をツールとして学校の状況話し合っ計画を作成する活動を運営し、ファシリテートするノウハウをすでに習得しており、全体として年次計画作成は円滑に行われた。

SIP 年次計画作成ワークショップでは、まず前年の計画をレビューした。パートナー NGO によると、ダディンの学校が、予算を必要とする活動を実施した割合は平均して 65%から 70%であり、予算を必要としない活動を実施した割合は 90%から 95%と思われる。その後、学校自己査定（SSA）チェックリストを用いて、前年の出席率、就学率、中退率、留年率、生徒の成績などについて確認を行った。各学校は、ワークショップの最後に、次年度の SIP 年次計画を完成するためのライティング委員会のメンバーを選定した。

SIP 年次計画作成ワークショップのモニタリングから得られた主な教訓は、以下の通りであった。

- (1) 各学校では、ローリング・プランとして毎年 SIP を 5 カ年計画として更新するよりも、中期計画である SIP に基づいて年次計画を作成することが望ましいとする傾向がみられた。SISM ではこの点について、DoE との検討が必要である。
- (2) 各学校の校長や SMC 議長のファシリテーション能力を向上させるには、1 回の研修を行うだけでは十分とは言えない。SS 及び RP によるモニタリングや技術支援に加えて、研修やワークショップを繰り返すことが必要である。
- (3) SIP 年次計画の更新は、教育年度の終了間際か、遅くとも新教育年度の開始直後に行われるべきである。

- (4) SIP 年次計画フォーマットは、できるだけ簡潔な内容とすべきである。
- (5) SSA チェックリストのチェック項目は現在 59 項目あるが、全ての項目が、いつも全学校にとって重要とは限らず、ワークショップを準備する校長たちにとっても大きな負担となる。SISM では、チェック項目を確認して、不要な項目の削除を検討する方針である。

3.6 ノンパイロット校に対する SMC/SIP 研修

SISM では、当初はパイロット校のみを対象として活動を行う予定であったが、現場からの要請に応じて、第 3 年次にはパイロット郡内のノンパイロット校に対しても SMC/SIP 研修を行うこととした。プロジェクト予算に制限があったことから、ノンパイロット校に対する研修は、学校レベルの研修を行うことは難しく、RC レベルの指導員研修のみを行うこととしていた。しかし、2009/2010 会計年度の教育局予算（5 千万ルピー）を用いて、全国 75 郡において SMC 能力強化を行うことが決定された。

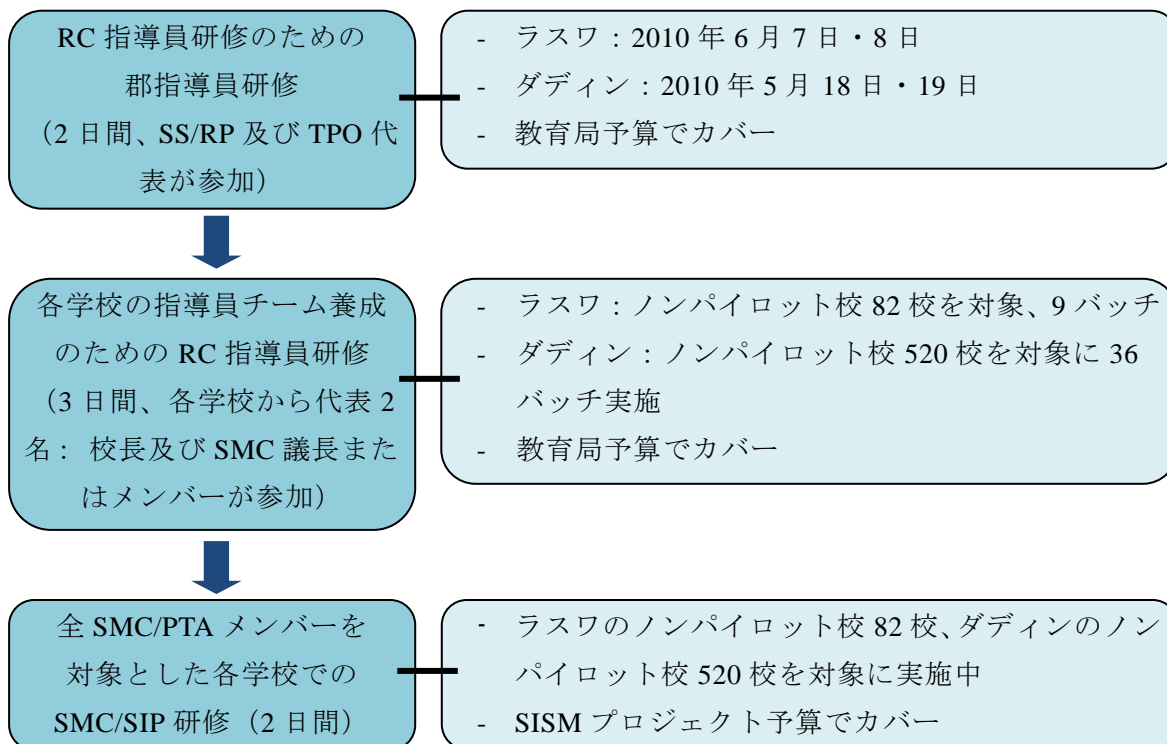
SISM は教育局と検討し、この予算を用いてパイロット郡において、ノンパイロット校研修用に郡レベル指導員研修、RC レベル指導員研修を行うこととした。当初、SISM では、ノンパイロット校を対象とした RC レベル指導員研修のみを行う予定であったが、このための SISM 予算を用いて、パイロット郡内のノンパイロット校（約 600 校）に対する SMC/SIP 研修実施支援を行うこととした。パイロット校よりも研修日数・予算面での投入を減らしたノンパイロット校への支援内容と成果に基づいて、ネパールにおいて、より効果及び持続性の高い最低限の SMC/SIP 研修のあり方を検討し、SISM モデルの開発・更新に役立てることを目指した。

ノンパイロット校に対する SMC/SIP 研修の手順は以下の通りであった。

- (1) 教育局、パイロット郡教育事務所、パートナー NGO と協力して、ノンパイロット校に対する SMC/SIP 研修実施計画のフレームワークを作成
- (2) 教育局、パイロット郡教育事務所と会合を持ち、実施計画・体制について合意
- (3) パイロット郡において詳細計画作成のための会合を行い、郡レベル指導員研修、RC レベル指導員研修、学校レベル研修の実施スケジュールを作成
- (4) 全 SS 及び RP の参加のもと、2つのパイロット郡において、2日間の郡レベル指導員研修を実施
- (5) 2日間の学校レベル研修用 TG を作成（もともとは3日間研修用の TG であった）
- (6) 両郡合わせて 602 校のノンパイロット校から、2名ずつの代表が参加して、SS 及び RP のファシリテーションのもと、45 バッチの RC 指導員研修（3日間）を実施

(7) 2010年7月から学校レベル研修(2日間)を実施中。10月中旬のダサイン休暇の前までに研修全体を終了する予定

ノンパイロット校に対する SMC/SIP 研修も、他の研修と同様にカスケード方式で実施することとした(図2)。



(出所：SISM プロジェクト・チームにより作成)

図2：SMC/SIP 研修の実施手順

郡レベルの指導員研修では、a) SISM が作成した TG 及び教育局の研修ハンドブックの内容説明、b) 郡レベルのニーズに基づいて2日間の学校レベル研修の内容と手順のデザイン、c) 郡レベルのニーズに基づいて3日間の RC レベル研修の内容と手順のデザイン、d) ファシリテーター技術に関する討議と実践：ファシリテーションとは何か、ファシリテーターの役割とは何か、e) RC レベル指導員研修の主要セッションのマイクロ研修(実地研修)、f) RC レベル研修の詳細設計、などを行った。

RC レベルの指導員研修は、ノンパイロット 602 校の各校に指導者チームを結成して能力強化を行うために、2010年5月から6月にかけて実施された。ラスワは SS 及び RP の人数が少ないため、RC レベル指導員研修では、全ての SS 及び RP が主ファシリテーターを務めた。ダディンでは SS 及び RP の人数が多く、6名の SS、18名の RP がファシリテーターを務めた。各学校からは、学校長、及び SMC 議長またはファシリテ

ーション能力があると思われるメンバーの計2名ずつが研修生として参加した。ノンパイロット校602校全体で、1,196名（1,021名の男性、175名の女性）が研修生として参加した。

ノンパイロット校における SMC/SIP 研修の主な活動内容は以下の通りである。

- (1) 出席簿の分析、SSA チェックリスト、及び学校の視察に基づいて、自分たちの学校の現状を把握し、改善点について合意
- (2) 学校運営における SMC 及び PTA の役割と責任に関する情報の共有
- (3) 教育省・教育局の政策、及び教育関連ツールに関する学習
- (4) SIP5 カ年計画及び SIP 年次計画のフォーマットと手順のレビュー
- (5) DEO 予算、ソーシャル・オーディット、及びチャイルド・フレンドリー・スクールに関する情報共有
- (6) 優先活動、及び学校計画に反映させることに関する合意

3.7 パイロット校において SIP に沿った活動実施

SISM パイロット校では SIP に沿って活動が展開された。パートナーNGO は、各パイロット校が作成した SIP の活動計画に沿って、郡教育事務所と協力しつつ、学校レベルの活動に対して技術面及び若干の資金面での支援を行った。本報告書の対象期間に実施された主な活動は以下の通りであった。

- (1) 年次就学キャンペーン（Annual Enrolment Campaign）：全国の郡教育事務所では毎年教育年度開始時の4月・5月に就学キャンペーンを行っている。SISM のパイロット郡では、パートナーNGO が SIP 更新時に行った世帯調査のデータや VEC 等から得たデータから未就学児童のリストを作成して、各学校に配布した。各パイロット VDC のソーシャル・モビライザーは、リストの内容について校長と確認を行い、コミュニティ、母親グループ、SMC、教育関係委員会（Education Concerned Committee）との会合を持ち、未就学児童へのアプローチ方法を検討し、キャンペーンの実施計画を作成した。同計画に基づいて行った主な活動は以下の通り。
 - 「Welcome to school」家庭訪問
 - 生徒・保護者を集めての学校運営改善ラリー
 - 母親グループ、コミュニティの会合
 - チャイルド・コミッティとの会合、彼らが計画した活動への参加
 - 入学予定のダリットの子どもたちへの文具や記念品の配布
 - ポスター及びパンフレットの配布

- 各パイロット VDC にバナーの掲示
- (2) VDC レベルでの SIP フォローアップ： パートナーNGO の支援により、ダディン郡において各パイロット校の SIP を共有し、SIP 更新や実施に当たっての利点、達成状況、課題について協議する VDC レベルのワークショップを開催した。ワークショップには、それぞれの VDC に所属するパイロット校の校長、SMC 議長、地域グループ、NGO、地方政府関係者、政党関係者、SS、RP が参加した。こうした VDC レベルでのワークショップが開催されるのは初めてで、VDC 内の関係者が集まって地域内の教育を話し合う場として有益であること、その際に課題を明らかにして具体的な対策について話し合いをするためのツールとして SIP が役立つことが理解された。ラスワ郡では、夏休みの時期がパイロット VDC によって異なったため 8 月にはワークショップが実施できなかった。9 月以降に実施予定である。
- (3) チャイルド・クラブ・トレーニング：パイロット校において、2 日間のチャイルド・クラブに対する研修を実施した。参加者は、各学校のチャイルド・クラブのリーダー（3 名～9 名）、教員 1 名で、SS、RP、パートナーNGO がファシリテーターを務めた。この研修では、子どもの定義、ネパールの子どもの現状、子どもの権利や役割、責任、チャイルド・クラブ、チャイルド・コミッティの目的、役割、規範、就学キャンペーンの目的や期待される成果などに関する説明、アクション・プランの作成が行われた。ラスワでは SEARCH-Nepal によって、パイロット校 24 校を対象に 6 バッチの研修が行われ、合計 190 名（男子生徒 96 名、女子生徒 77 名、教員 17 名）が参加した。ダディンでは Aasaman-Nepal が 18 バッチの研修を行い、パイロット校 69 校から合計 475 名が参加した。
- (4) チャイルド・フレンドリー・スクール研修：教員（各パイロット校から 1 名）及び RP 希望者を対象に、ダディンでは 3 バッチ、ラスワでは 1 バッチで、チャイルド・フレンドリー・スクール研修を実施した。ファシリテーターは、RP、パートナー NGO スタッフ、DoE スタッフが担当した。同研修の内容は、1) 子ども時代の楽しかった経験の回想、2) 事例研究からの学び、3) 子どもの権利及びチャイルド・フレンドリー・スクールの概念について、4) チャイルド・フレンドリーのチェックリスト、5) チャイルド・フレンドリー・スクールにおける教員、保護者、学校の役割、6) 児童中心型授業及び学習、7) マイクロ・ティーチング、8) 今後の活動予定などであった。

3.8 今後実施が必要なフォローアップ活動

これまでの SISIM での経験から、SIP は、SMC 及び PTA の能力向上のために非常に有益なツールであることが分かった。SIP を活用することで、コミュニティの参加を促し、彼らが自らの責任に気づき、学校運営改善のための具体的活動を促し、教育の質の改善

につなげることができる。

SISM の経験・成果を踏まえて、SISM では研修ガイド (TG) を改訂し、第 2 版を 1000 部コピー・製本した。また、指導員研修の実施方法・手順についてのガイド (英文) もとりまとめた。

今後、SISM の成果を普及・活用するには、以下のフォローアップ活動が必要である。

- (1) ノンパイロット校における SMC/SIP 研修の有効性・効率性を確認する。
- (2) SISM モデルは山岳 (丘陵) 地域の郡・学校をパイロットとして開発されたものであるから、タライ地域で活用する場合には、多少の修正が必要と考えられる。ニーズや制約要因、ポテンシャルに応じてどのような変更が必要であるかについて、タライで活動するプロジェクト (SCJ による草の根技術協力) などの経験を参考にしつつ、必要な修正について確認する。
- (3) ノンパイロット校での成果、及びタライからの情報等に基づいて、ミニマム・パッケージを検討し、持続性があり、かつ効果的な SISM モデル・パッケージの最終化を図る。
- (4) 上記を踏まえて、SISM モデルを活用した全国 SMC 能力向上計画を作成する。

第4章 郡教育事務所能力強化

4.1 VEP 及び DEP の現状確認

VEP 及び DEP に関連した VDC 及び DEO の能力向上を図るにあたって、パイロット郡における VEP 及び DEP 作成の現状を確認した。ラスワ郡は SSRP のモデル郡であることから、パイロット VDC はいずれも VEP を作成していた。一方、ダディン郡では CASP の対象 VDC であった VDC（ベニガット）では VEP 作成の経験を持っていた。

各学校では、そのキャッチメント・エリアの非就学児童について、ある程度の情報をもっていることから、SIP にも非就学児童に関する対応が含まれているが、VEP はフォーマル及びノンフォーマル教育の両面から非就学児童の問題に対応する役割を有する。VEP は、VDC の計画改善を進める上で重要なツールであるが、全国的に VDC への要員配置が遅れ（異なる VDC を同一の行政官が兼務していることも多い）、パイロット VDC の大部分が村落教育委員会（VEC）を設置していなかった。このため、SISM では VEC を設置支援することから活動を開始した。

DEP については、DEO を中心に作成され、改訂が行われてきた。しかし、データ部分が多く、データと計画の論理的流れに欠けているなど、実用性に乏しい DEP となっていた。また、DEP を作成する際に、学校や SMC のニーズ、或いは SIP や VEP の内容が反映されることはなかった。

4.2 VEP オリエンテーション

VEP オリエンテーションは、1) VEP の現状をレビューし、社会的弱者グループなどを含む住民参加により、どのように VEP 作成・更新、活用の体制を整備するか協議する、2) SIP を活用し、VEP への正規教育のより効果的な盛り込み方を検討する、3) VEP 作成・更新のための VDC/VEC アクション・プランを作成する、4) VDC/VEC による VEP 作成を支援する、等を主な目的として実施した。

オリエンテーションは、事前に VEP 作成会議で打ち合わせを行った SS、RP が進行役を務め、DEO 所長とセクション・オフィサーが彼らを支援した。パートナー NGO は、ファシリテーションや運営面での支援を行った。VDC セクレタリーが中心となって、オリエンテーション参加者選定や企画が行われた。VEP オリエンテーションには、DEO 所長・行政官及び RP に加えて、VEC メンバー、VDC セクレタリー、全パイロット校の校長、SMC 会長、PTA 会長、主要政党代表、ローカル NGO 代表、生徒クラブ代表、女性グループやダリット・グループ等、その他地域グループの代表が参加した。

オリエンテーションは、3VDCそれぞれの現状・特性に合わせて企画され、実施された。例えば、ムラリバンジャンでは、RPやVDCによって一旦VEP作成が試みられたが、責任者や委員会がなく、費用や時間もなかったことから断念したことがわかった。カトンジェでは、DEO、DoE、NFEC主導でVEP作りが試みられ、世帯調査などの情報収集が行われたが、結局VEPは作られなかったことが判明した。このため、オリエンテーションは、各VDCのこれまでの経験や問題を踏まえて、VEP作成プロセスや作成と実施の責任体制、役割などの説明を中心とした内容とし、VDC（特にVEC）の役割の重要性を認識してもらうことに努めた。一方、ハクでは、すでにDEO、DoE、NFECによって2007年にVEPが作成されていたことから、参加者に既存VEPをレビューして、そのアクション・プランを更新することとした。ただし、参加者の多くは、これまで既存VEPを見たことがなかった。

対象VDCでは、VDCの人々が集まってVEPについて協議する機会を持つことはこれまでなかったため、参加者には、既存の政策やプログラム、VDCの役割等について情報を得る良い機会となった。また、参加者も、自らがVDC内の教育改善を図る上で重要な役割を担っていることを認識した。政党代表やVDCセクレタリーにとっては、多くのステークホルダーと教育分野の計画作成や予算について話し合うよい機会となり、彼らが責任をもってVEP作成・更新を進めるという意思表示が行われた。VEPオリエンテーション終了時には、VEP作成・更新のためのアクション・プランが作成された。実施機関としてVECを設置するか、再設置することの必要性が確認された。今後の作業を進めるため、VEPワークショップ開催の日程も決定された。

VEPオリエンテーションからの教訓は以下の通り。

- (1) ハクでは、VEPが作成されていたが、参加者の多くはこれまで見たことがなかった。VEPは、ごく一部の人たちによって作成され、他のステークホルダーとは共有されていないのが現状であった。
- (2) VDCやステークホルダーの役割や責任を理解することで、参加者のVEP作成への意欲は高まった。VEP作成プロセスでは、広範かつ多くのコンサルテーションや情報共有が必要である。
- (3) VEPのコンセプトや重要性を認識し、VDCセクレタリーは、VEP作成・更新のためにVECを再設置または活性化させることに意欲を見せた。
- (4) VEP作成・更新の責任者であり、支援する立場にあるVDCセクレタリーの役割・責任について、より焦点を当て、強化を図ることが重要である。

4.3 VEPワークショップとVEP作成・更新

VEP作成・実施プロセスに住民参加を盛り込んで、VEPをVDCの教育改善に役立たせることを目指して、VEPワークショップ（3日間）を開催した。VEPワークショップ

では、1) VDC ステークホルダーの VEP 作成・更新における能力を強化し、2) VEP 更新のための具体的アクション・プランを作成することを目的とした活動を行った。VEP ワークショップ参加者は、VDC セクレタリーが中心となって選定・企画をし、各 VDC 内の学校数に応じて、25 名から 40 名が参加した。

ワークショップのファシリテーターは、SS、RP、パートナー NGO、SISM のナショナル・スタッフが務め、中でも SS、RP が多くのセッションを担当した。DEO 所長・行政官からも運営面の支援があった。VEP ワークショップの参加者は、VEC メンバー、VDC セクレタリー、RC 校の校長、SMC 会長、PTA 会長、主要政党代表、ローカル NGO 代表、生徒クラブ代表、教育分野で活動する地域グループ代表が参加した。

VEP ワークショップの教訓は以下の通り。

- (1) VEP ワークショップは、主要ステークホルダーに VEP のコンセプトや重要性を認識してもらう上で有益であった。
- (2) 参加者には、自らの VDC における教育の現状と問題点を話し合い、理解し、目標とのギャップや優先課題、利用可能な資源などを明らかにして、計画を作成する手法を学ぶ有益な経験となった。
- (3) VEP は、学校ごとの計画や予算に基づいて、VDC が公正な予算配分を行う上で重要であることが認識された。
- (4) VEC、政党、VDC は、VEP の作成・更新、実施に対して、より積極的な役割を果たすべきである。
- (5) VEP ファシリテーター・ガイドラインの作成・活用は有益であり、今後も改訂・改善が必要である。
- (6) SS と RP には、計画策定（マイクロプランニング）能力の強化が必要である。

4.4 VEP/DEP 更新

SISM では、2008 年 9 月から 2009 年 5 月までに各 VDC と VEP 作成のためのオリエンテーションとワークショップを開催した。その後 1 年以上をかけて、2010 年 8 月までに、8 つのパイロット VDC の全てが VEP を作成し、VEC の承認を受けた。

VEP 及び DEP の更新活動を通して、以下の課題・教訓が明らかになった。

- (1) VEP 及び DEP の更新の第 1 段階である教育データの収集・整理に非常に時間がかかった。Flash I 及び Flash II など既存の資料を使ってより効率的に行うことが望まれる。

- (2) 作成された DEP 及び VEP は、ページ数が多く、またたくさんのデータが含まれていて、それぞれの郡や VDC における主要目標や優先課題が分かりにくい。より簡潔で使いやすい（使うことを目的とした）計画書を作成する必要がある。
- (3) VDC レベルでの人材不足が、VEP 作成をより困難にしている。
- (4) 郡教育事務所は、VDC に対して権限を持っていないため、郡教育事務所だけを通して VEP の作成を進めることは難しい。VDC における VEP の位置づけを明らかにし、DDC による VEP 作成指導のあり方を強化する必要がある。
- (5) 人事異動によって研修を受けた郡教育事務所スタッフが他部署へ異動してしまったケースが複数あり、新たに配属されたスタッフに研修のし直しとなった。特に、郡レベルでは RP の位置づけ、役割が不安定である。
- (6) 郡レベルではある程度技術レベルの高い人材がいるものの、ラスワでは必ずしも十分とは言えず、DEP 更新に支障をきたした。
- (7) 地方自治体（VDC 及び DDC）が選挙で選ばれていないこと、VDC セクレタリーや地方開発行政官（LDO）などの地方行政官が頻繁に異動したことから、VEP や DEP 関連の会合開催や活動の実施が予定通り行えなかった。
- (8) 郡教育事務所では、次の会計年度のために ASIP 及び AWPB を作成することとなっていることから、その基礎情報をまとめるために DEP 年次計画を作成することが有益と考える。

4.5 VEP レビュー及び更新ワークショップ

VEP 作成後には、具体的な活動計画を作成することが必要であることから、SISM は、パイロット VDC とともに作成した VEP をレビューし、年次活動計画を更新するワークショップを開催した。VEP レビュー及び更新ワークショップの目的は以下の通り。

- (1) VDC 内の教育関係のステークホルダーが集まって VEP をレビューし、「VEP の 1 ページ・サマリー」を作成して、自分たちの VEP の主要なポイントを理解する。
- (2) 過去 1 年の SIP 及び VEP の実施状況をレビューする。
- (3) VEP 第 1 年次の活動状況に基づいて、第 2 年次のアクション・プランを作成する。アクション・プランは、現実的であり、予算面からも実施可能な計画とする。

VEP レビュー及び更新ワークショップを通して以下の課題・教訓が明らかになった。

- (1) VEP を 1 ページのサマリーにまとめる作業及びフォーマットは、協働作業を通して VEP を理解する上で、非常に役立った。また作業を進めながら、ページ数が多くデ

ータがたくさん入っている VEP が不便であることも理解された。サマリーを作成する過程で、現在の VEP や SIP において、優先課題と目的、活動との間に論理的な関連性があること、またはきちんと関連性がないことなども参加者によって確認された。

- (2) VDC 内に位置する全学校関係者の間で過去 1 年の SIP 及び VEP の実施状況をレビューすることも、課題確認や、特に、グッド・プラクティスの経験などを共有することで有益に機能した。
- (3) 年次アクション・プランを作成するにあたっては、ファシリテーターは、外部からの資金や支援を期待するのではなく、自らのリソースで実現可能な教育改善活動計画を作成することの重要性を強調した。多くの活動が予算なし、または低予算でできる活動であったことから、多くの活動が実施されており、VDC 内の教育を改善する上でアクション・プラン作成手順は役立ったと言える。

VEP レビュー及び更新ワークショップは、VDC またはその他資金源からの資金調達方法を探ることもその目的の一つとした。パイロット VDC からの報告によると、VEP を作成してから、これまでより多くの VDC 予算が得られたとのことであった。VEP 作成を参加型で行ったことが、VDC レベルの理解と支援を高めることにつながったと考えられる。

4.6 DEP レビュー

ダディン郡もラスワ郡も、2010 年 4 月に更新した DEP が郡の計画として承認された。DEP の普及・活用のために、DEP レビュー・ワークショップ（1 日間）を、2011 年 1 月に両郡で行った。DEP レビューの目的は以下の通りであった。

- (1) 更新された DEP の進捗と制約要因を確認する。
- (2) DEP 実施に関する共通理解を育てて、今後の進め方を明らかにする。
- (3) DEP 年次計画（アクション・プラン）を作成する。

今回の DEP レビューで、以下の教訓が得られた。

- (1) DEP 作成上のデータ分析で、EMIS のより効率的な活用を検討する必要がある。
- (2) EMIS には学齢期児童の人口、非就学児童数など重要ながカバーされていないデータがある。また各学校の就学者数等についても水増しデータが学校から報告されているとのうわさもある。EMIS データの改善が急務である。
- (3) DEP 更新プロセスには、関係者のオーナーシップを高めるために、彼らの参加を強

化する必要がある。

- (4) DEP 作成・更新は教育局から指示されているが、DEP 実施のための資金調達方法については教育局から明らかにされていない。せっかく作成した DEP を活用するために、教育局は、各郡教育事務所が DEP 実施に使える予算額を（概算でも）前もって示すことが望まれる。
- (5) 5 カ年の中期計画である DEP と年次戦略・活動計画（ASIP）の間にも整合性がない。DEP の作成・更新を義務付けるのであれば、毎年 DEO によって作成される ASIP は、DEP の目標や基本方針、優先度に沿って作成されるべきである。
- (6) VEP レビューも DEP レビューも、ともにステークホルダーの啓発に役立った。しかし、VDC や DDC から学校に提供される資金配分が増加するには至っていない。VDC や DDC では、教育の重要性を認識していても、地域における道路や水供給施設建設などインフラ整備へのニーズが強いことも確かである。地方行政からの予算配分を求めるだけでなく、中央の政策決定レベル（地方開発省と教育省）で調整が図られるよう、地方の現状を伝えていく必要性は高い。

第5章 SISMモデルの普及へ向けて

5.1 政策提言の作成

SISMモデルの普及を図るために、3年間のSISMの経験・成果を踏まえ、以下の提言を作成し、教育省・教育局に提出した。

提言1： SISMモデルを継続的に実施し、モニタリングを行う。

SISMモデルの目的は以下の通り。

- 1) 学校と SMC、そしてコミュニティが、自分たちの子どもたちのために教育環境を改善するために、「議論し、計画し、行動に移す」という一連の活動を協力して行うことで学校運営を強化し、
- 2) 新しいものを導入するのではなく、すでにあるものを活用して活性化し、
- 3) 学校の現状分析、優先度付、計画、実施、リソース・モビライゼーションのためのツールとしての SIP の機能に注目し、プロジェクトでの活用を通して、SIP を簡素化、実施可能な形に改訂して、
- 4) 学校と SMC、コミュニティに自分達の役割と責任を見直し、再確認して、学校運営改善で何ができるかについて話し合う機会を提供し、
- 5) 上記の活動を展開する学校と SMC、コミュニティの活動を支援するために、中央及び地方教育行政の役割と責任を明確にする。

SISMモデルは以下の活動、ツール、人材から構成される。

【研修活動】

- 1) SISM で実践したカスケード研修アプローチに沿って、郡指導員研修、RC 指導員研修、学校レベルでの研修を行う。
- 2) 最初に「SIP オリエンテーション」を開催して SMC/PTA の役割と責任を話し合うことが、学校レベルの一連の活動を行うにあたって効果的である。
- 3) SIP オリエンテーション、更新ワークショップ、SIP 更新作業及びアプレイザル実施に当たっては、SISM の提案する「簡素化・実施可能な SIP 作成」のための手順に従う。
- 4) SS/RP の役割を重視し、学校改善活動に対する彼らのモニタリング・指導能力を

強化する。

【学校運営のためのツール】

- 4) コミュニティが使いやすいように SISM で簡素化した「学校運営改善のためのツール」：SIP（5 年計画）フォーマット、年次 SIP フォーマット、学校自己査定（SSA）フォーマット、出席チェック率と、社会監査、学校実績レビュー、規範、チャイルド・フレンドリー・スクール研修など。
- 5) SMC/PTA 研修ガイド（TG）

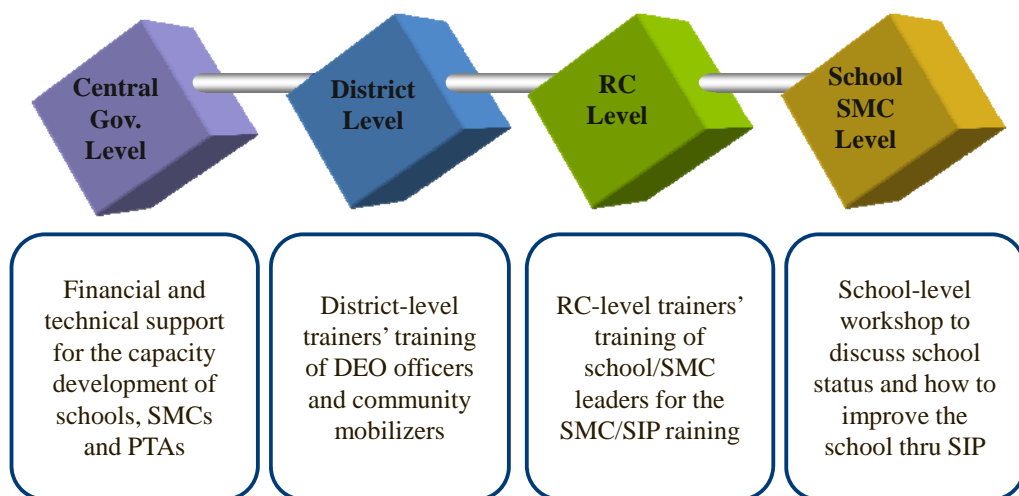
【人材】

- 6) RC レベル指導員研修で研修を受ける各学校/SMC の代表者
- 7) 郡レベル指導員研修で研修を受ける SS/RP
- 8) 教育局の研修タスクフォース

提言2: SISMモデルを用いてSMC能力向上のためのアクション・プランを作成する。

【研修デザイン】

- 1) 教育省及び教育局は、各郡に対して SISM モデルの研修フレームワークと技術・財務面の支援を提供する。
- 2) 郡レベル指導員研修を実施する（3 日または 5 日間）
- 3) RC レベル指導員研修を実施する（3 日または 5 日間）
- 4) 各学校で SMC/SIP 研修を実施する（2 日または 3 日間）



5) 郡及び RC レベル指導員研修の主要研修目的は以下の通り。

(3 日間研修のケース)

1 日目・ 2 日目	<ul style="list-style-type: none"> カスケード研修アプローチの全体概念の理解 郡・RC レベル指導員研修実施のアクション・プランの作成 ファシリテーター技術の理論・実地研修 モニタリング及びフォローアップ計画の作成 学校訪問を通じた 1 日実地研修
3 日目	<ul style="list-style-type: none"> 学校で行われる 3 日間研修をロールプレイで実践

* 研修を行うにあたっては、SISM の SMC/PTA 研修ガイドの活用が有益である。

【役割と責任】

	実施者	役割	主な業務
中央	教育局	中央・郡レベル指導員研修のファシリテーター	意思決定 技術支援
郡	郡教育事務所	研修マネージャ	研修計画作成、技術支援、モニタリング
RC	RP	RC レベル指導員研修のファシリテーター	RC レベル指導員研修のファシリテーション
学校マネジメント	校長、SMC 議長、SMC メンバー	学校レベル研修のファシリテーター	学校レベル研修のファシリテーション
SMC、コミュニティ	SMC/PTA、教員、生徒	学校レベル研修の参加者	研修に参加

【能力向上の事業費】

年	研修コンポーネント	費用概算
1 年目	1) 全国で郡レベル指導員研修 2) 全国 35%の学校を対象に RC レベル指導員研修 3) 全国 35%の学校で SMC/SIP 研修実施	NRs. 90 百万
2 年目	1) 全国 35%の学校を対象に RC レベル指導員研修 2) 全国 35%の学校で SMC/SIP 研修実施 3) すでに研修を修了した学校に対して SIP 年次計画更新及びフォローアップのための 1 日ワークショップ	NRs. 80 百万
3 年目	1) 残り 30%の学校を対象に RC レベル指導員研修 2) 残り 30%の学校で SMC/PTA 研修実施 3) すでに研修を修了した学校に対して SIP 年次計画更新及びフォローアップのための 1 日ワークショップ	NRs. 80 百万
合計		NRs. 250 百万

提言 3： 学校及び SMC による活動への支援体制を整備する。

今後、SISM モデルを普及・活用していくためには、上記のカスケード研修方式の実践に SS/RP を巻き込んで、彼らの能力強化も同時に行うとともに、オーナーシップを高めて学校／SMC に対する支援体制を確立・強化する。

5.2 ネパール側関係者のコメント

ARM の最終会合、成果普及ネットワーキング・ワークショップ、内部打合せ等の場において、SISM モデル及び上記提言等について、ネパール教育省・教育局関係者からは以下のコメントを得ることができた。

- (1) SISM プロジェクトのフェーズ 2 が来年度に行われたいのは非常に残念である。自分たちとしては、新しいプロジェクトが欲しいのではなく、この SISM をこのまま継続することを望んでいる（2010 年 12 月、CP 本邦研修・JICA 本部との会合にて、教育省計画局：ジャーナルダン・ネパール局長）
- (2) プロジェクトが行われている間は皆活動を行っていても、プロジェクトが終わってしまうと、活動を継続して行うことはなかなか難しい。小規模であっても、何らかの形で SISM の継続活動があると効果的である。SISM のフル・スケールの実施が難しければ、例えば、協力隊を、ダディンやラスワの郡教育事務所に配置し、SS/RP の学校モニタリング・指導を支援することも有益と考える。（2010 年 12 月、CP 本邦研修・JICA 本部との会合にて、教育省計画局：ジャーナルダン・ネパール局長）
- (3) SISM を通して、自分たちの既存のシステムである SMC や SIP の役割を再確認し、活性化することで学校改善が可能であることが理解できた。また、現場も自信を持つことができた。ぜひこの成果を普及していきたい。（2011 年 1 月、SISM・DVD でのインタビューにて、教育省計画局：ジャーナルダン・ネパール局長）
- (4) 成果普及ネットワーキング・ワークショップは、教育現場で何が起きているかについて情報共有するために非常に有益であった。SISM がパイロット郡で行ったことをフル・スケールで継続していくことは我々には不可能であるが、SISM のグッド・プラクティスや教訓から学び、戦略や計画に反映させることはできる。我々にとって、如何に SISM モデルを教育局及び郡レベルのプログラムに組み込んでいくかを検討することがこれからの重要な責務である。教育省・教育局は、地方開発省と協力し、地方行政（DDC 及び VDC）を通し、SIP 及び VEP をツールとして、学校に対する資金的支援を整備することが必要で、教育省にとって重要な責務と認識する。SISM の経験はこうした面でも活かすことができる。（2011 年 2 月、成果普及ネットワーキング・ワークショップにて、教育局：ラバ・デオ・アワスティ局長）

- (5) **SISM** の成果を自分たちで進めていきたい。**SISM** はどの業務を実施済みで、教育局としては次にどこから進めるべきかが一目でわかるようなチェックリストを作成してもらえると行動を起こしやすい（2011年2月、**JICA** 事務所・**SISM** との最終打合せにて、教育局：ラバ・デオ・アワスティ局長）
- (6) **SISM** の成果を進めていきたいが、急に自分たちだけで進めるのではなく、当面は、技術的なバックストップとして、**JICA** 側からのフォローアップが果たす役割は大きい。2月には、リージョンごとに **DEO** を集めて **ASIP** 作成に関する説明会を行う。この折に、**TG** 第2版を配布することは有益と考える。（2011年2月、**JICA** 事務所・**SISM** との最終打合せにて、教育局計画予算部：デパック・シャルマ課長）

5.3 **SISM** モデルの普及のために

上記(5)に示す通り、アワスティ教育局長から、**SISM** モデルの開発・普及について、「**SISM** ではどこまで達成したか、今後は何をする必要があるのか」についてチェックリストを作成してほしいとの要請があった。

「これまで **SISM** が何を行ったかを示すチェックリスト」は作成したが、これから教育局が行っていかなくてはならない（あるいは **JICA** がフォローアップを通して実施支援）活動については、現時点では以下が考えられる。教育局関係者のコメントを得ながら、チェックリストを完成させ、ネパール側と共有する予定である。

- (1) ノンパイロット校に対するモニタリングを行って、ノンパイロット校における **SMC/SIP** 研修の有効性・効率性等を確認する。
- (2) **SISM** モデルは、タライ地域で活用する場合に、ニーズや制約要因、ポテンシャルに対応してどのような変更が必要である可能性が大きい。タライで活動するプロジェクトなどの経験を参考にしつつ、必要な修正について確認する。
- (3) ノンパイロット校での成果、タライからの情報等に基づいて、ミニマム・パッケージを検討し、効率的で持続性のある **SISM** モデル・パッケージの最終化を図る。
- (4) 国際 **NGO** 及びネパール **NGO** と協力して、郡レベル指導員研修及び **RC** レベル指導員研修の研修プログラムの見直し、研修実施に当たっての研修タスクフォースの能力向上（研修など）を行う。
- (5) 上記を踏まえて、**SISM** モデルを活用した全国 **SMC** 能力向上計画を作成する。
- (6) 3カ年計画または5カ年計画の全国 **SMC** 能力向上計画の実施体制を整備し、**SISM** モデルを開始する。例として3年間で行う場合のアクション・プランを **P35** に示す。
- (7) 必要であれば、各 **RC** レベルで、**SS/RP** のアシスタントとして、現地コミュニティ

から「コミュニティ・モビライザー」を選び、育成する。

- (8) 研修を全国展開するにあたって、定期的なモニタリング体制を確立し、そこから得られるフィードバックに基づいて、**SISM** モデルを適宜更新する。
- (9) MoE、DoE、関連ドナー、国際及びネパール NGO で、**SMC** 能力向上計画の実施に際して定期的な調整会合を持ち、進捗プロセスを確認する。

以上のプロセスを踏みながら、学校まで便益が届く形で、**SISM** モデルを活用した学校運営改善が進められることが大いに期待される。

添 付 資 料

添付資料 1 : PDM の変遷 (改訂後 PDM、当初 PDM、PDM 改訂の理由)	A-1
添付資料 2 : 業務実施スケジュール (計画・実績)	A-13
添付資料 3 : SISM の活動・成果一覧.....	A-15
添付資料 4 : SISM の対象グループと活動内容.....	A-18
添付資料 5 : SISM で作成した成果品リスト.....	A-19
添付資料 6 : 投入実績 1ー専門家派遣実績 (メンバーリスト及び人月表)	A-20
添付資料 7 : 投入実績 2ーカウンターパート (CP) リスト	A-24
添付資料 8 : 投入実績 3ーCP 研修実施実績	A-25
添付資料 9 : 投入実績 4ーモニタリング・評価	A-26
添付資料 10 : 投入実績 5ーJICA 関連事業との連携実績.....	A-27
添付資料 11 : 投入実績 6ー現地業務費実績	A-28
添付資料 12 : 投入実績 7ー現地 NGO 再委託業務内容	A-29
添付資料 13 : 投入実績 8ー供与機材実績	A-31
添付資料 14 : 相手国との会議議事録 (ARM との会合の概要、最終会合議事録)	A-32
添付資料 15 : 収集資料リスト	A-42

添付資料 1-1 : PDM の変遷 (改訂版 PDM 和文)

プロジェクト名 : ネパール国小学校運営改善支援プロジェクト

対象地域 : ネパール国内パイロット 2 郡 (ダディン郡及びラスワ郡)

プロジェクト実施期間 : 2008 年 2 月 26 日 ~ 2011 年 2 月 25 日

(2009 年 11 月 20 日更新)

プロジェクトの要約	指 標	指標入手方法・入手先	主な外部条件
上位目標： プロジェクト対象地域における初等教育の就学率及び中退率が改善される。	1. 対象地域における初等教育就学年齢にある児童の純就学率 (NER) が改善する。 2. 対象地域における初等教育就学年齢にある児童の中退率が改善する。	1. 教育局 EMIS 2. 教育局 EMIS	教育省が引き続き EFA 政策を推進する。 対象地域の政治及び社会経済情勢が現状より悪化しない。
プロジェクト目標： プロジェクト対象地域において、政府の支援と住民参加により、学校運営が改善される。	1-1 前年度に、SIP に計画した「予算なしで実施できる活動」の完了率が 100%であったパイロット校の数。 1-2 前年度に、SIP で計画した「低予算で実施できる活動」の完了率が 80%以上であったパイロット校の数。 1-3 前年度に、SIP で計画した「予算を必要とする活動」の完了率が 30%以上であったパイロット校の数。 1-4 「予算を必要とする活動」の完了率が、SISM 実施前に比べて増加する。 2. 保護者及び地域住民の学校運営に対する満足度が、5段階評点で平均3.5点以上となる。 3. 前年度に、学校の活動に対して保護者及び地域住民から提供された寄付額 (資金及びルピー換算した労働及び物品) が、前々年度に比較して20%増加する。 4. 規程に沿って、パイロット校の75%以上が、前年度の財務監査報告書及び社会監査報告書をSMCと共有する。 5-1 地方行政の支援を受け、SISM実施前に比べてより多くの学校運営関連行事が実施される。 5-2 地方行政支援の内容と範囲。 6. パイロット校によるVDC/DDC資金へのアクセスが改善する。	1. SMCによる自己査定 2. 保護者及びSMCとのフォーカス・グループ・ディスカッション 1. 保護者及びSMCとのフォーカス・グループ・ディスカッション 1. パイロット校からの財務データ収集 2. 保護者及びSMCとのフォーカス・グループ・ディスカッション 1. パイロット校の財務監査報告書・社会監査報告書 1. 保護者及びSMCとのフォーカス・グループ・ディスカッション 2. DEO、DDC/DEC、VDC/VECへのインタビュー 1. 保護者及びSMCとのフォーカス・グループ・ディスカッション 2. DEOスタッフへのインタビュー	教育省が引き続き学校運営強化政策を推進する。 教育省が引き続き学校運営への住民参加を推進する。

<p>期待される成果：</p> <p>1. 住民参加による SMC の学校運営能力が向上する。</p>	1-1	パイロット校SMCの100%が社会的弱者グループからメンバーを選び、意思決定への全メンバーの参加状況がSISM実施前に比べて改善される。	1-1	保護者及びSMCとのフォーカス・グループ・ディスカッション	MoE が引き続き SMC 及び SIP に対する政策・戦略を推進する。
	1-2	パイロット校の 80%以上が、SIP の計画部分に地域ニーズが反映されている程度について、5 段階評点で 3.0 点以上の評点を得る。	1-2	SMCによる自己査定及びDEO、SS、RPIによる評点	SIP に対する予算配分が現状より減少しない。
	1-3	パイロット校の100%が、SIP更新プロセスに保護者及び地域住民を参加させる。	1-3	保護者及びSMCとのフォーカス・グループ・ディスカッション	DDC 及び VDC 予算が現状より減少しない。
	1-4	パイロット校の50%以上が、SMCのSIP実施及びモニタリングについて3.0点以上の評点を得る。	1-4	SMCによる自己査定	経済及び政治情勢の変化が、対象地域の活動に影響を与えない。
	1-5	SISM 実施前の状況に比べて、集会（保護者会、学校の年次会合など）への社会的弱者グループを含む保護者の参加度が改善される。	1-5	保護者及びSMCとのフォーカス・グループ・ディスカッション	カウンターパートの頻繁な異動が起こらない。
	1-6	不就学児童や中退した児童に対する活動の計画作成・実施能力と活動内容が、SISM実施前の状況に比べて強化されたSMCの数。	1-6	保護者及び SMC とのフォーカス・グループ・ディスカッション	
<p>2. 技術・財政面で学校運営を支援する DEO、DDC 及び VDC の能力の魚力が強化される。</p>	2-1	SS 及び RP が、少なくとも規程通り学校訪問を行う（SS は月 3 校を訪問、RP は担当校のすべてについて年間 2 回ずつ訪問）。	2-1	SS 及び RP に対する質問票調査	
	2-2-1	不利益な環境にあるパイロット校の 100%が、前年度に SS 及び RP によって 1 回は訪問される。また不利益な環境にあるパイロット校の 80%以上が 2 回の訪問を受ける。	2-2	SS 及び RP に対する質問票調査	
	2-2-2	訪問の質をチェックするために、訪問の目的と支援内容を確認。			
	2-3	SS 及び RP の支援に対する SMC の満足度が、5 段階評点で 3.0 点以上の平均点を得る。	2-3	保護者及び SMC とのフォーカス・グループ・ディスカッション	
	2-4	SISM 実施前に比べて、VDC から技術面・財務面でのコンサルテーションを受けたパイロット校または SMC の数が増加する。また、VDC の支援が受けられたパイロット校または SMC の数が増加する。	2-4	保護者及び SMC とのフォーカス・グループ・ディスカッション	
	2-5	SISM 実施前に比べて、DDC から技術面・財務面でのコンサルテーションを受けたパイロット校または SMC の数が増加する。また、DDC の支援が受けられたパイロット校または SMC の数が増加する。	2-5	保護者及び SMC とのフォーカス・グループ・ディスカッション	
<p>3. 最低限の教育の質を確保を全国的に達成するために採用すべき措置</p>	2-6	郡レベル及び VDC レベルで、教育関連で定期的開催される関係者ネットワークワーキング会合の数。	2-6	DEO、DDC、DEO、VDC、VEC に対するインタビュー	
	3-1	SISM によって作成され、MoE 及び DoE に提出された技術基準・施策等の数。	3-1	SISM プロジェクトからの情報	

<p>(施策・基準)について提言が策定され、MoE 及び DoE によって採用される。</p>	<p>3-2 MoE 及び DoE によって何らかのアクションが起こされた技術基準・施策の数。</p>	<p>3-2 MoE、DoE 及び SISIM プロジェクトからの情報</p>	
<p>活動：</p> <p>1-1 学校運営に関し住民を啓発する。</p> <p>1-2 SMC が地域住民の代表としての役割を果たせるよう指導する。</p> <p>1-3 住民動員、計画作成、モニタリング、評価、報告等に関する学校・SMC 研修を強化する。</p> <p>1-4 SIP 作成及び実施における住民参加のプロセスを改善する。</p> <p>1-5 学校及び SMC による不就学児童の就学を進め、また中退率を低減するための手法・活動を改善する。</p>	<p><ネパール側></p> <p>1. カウンターパート要員の配置</p> <p>2. DoE 及びパイロット DEO の事務所スペース及び施設</p> <p>3. プロジェクト運営費</p> <ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト実施費用 (SIP 研修、SMC モニタリング等に係る費用など) - 事務所光熱費等 	<p><日本側></p> <p>1. 専門家：</p> <p>長期専門家</p> <ul style="list-style-type: none"> - 総括／教育行政 - 学校運営 - 地方教育行政 <p>短期専門家</p> <ul style="list-style-type: none"> - 必要に応じて適宜 <p>2. カウンターパート研修</p> <p>3. プロジェクトに必要な資機材</p> <p>4. 現地業務費 (NGO 再委託費を含む)</p>	<p>対象地域の治安が現状より悪化しない。</p> <p>現政府の SIP 及び学校運営に関する政策が激変しない。</p> <p>DDC、VDC レベルでの政治的变化がプロジェクト実施の妥当性に影響を与えない。</p> <p>対象地域の住民がプロジェクトを理解し、活動に積極的に協力する。</p>
<p>2-1 SIP を分析して、郡内の問題点、優先度を明らかにするよう DEO を支援する。</p> <p>2-2 不利な環境にある学校に対して、技術面・財務面で支援できるよう DEO を支援する。</p> <p>2-3 村落内の教育課題を村落計画に盛り込むよう VDC を支援する。</p> <p>2-4 地域内で可能な資源を活用するため、DEO、DDC、DEC、VDC 等の教育関係者のネットワークを強化する。</p>			<p>知識や技術の組織内での共有、制度化が検討される。</p>
<p>3-1 対象地域内の学校の技術面・財務面での能力格差を分析する。</p> <p>3-2 学校ごとの格差を是正するための手段を検討する。</p> <p>3-3 郡ごとの格差を是正するための手段を検討する。</p> <p>3-4 MoE 及び DoE に最低限の教育の質を達成するための提言を行い、他の関係機関とも共有する。</p> <p>3-5 対象郡での活動から得られた教訓を他郡と共有する。</p>			<p>前提条件</p> <p>対象地域の治安が現状より悪化しない。</p> <p>MoE、DDC、VDC、DEO、対象地域の住民、他ドナーが活動に反対しない。</p>

添付資料 1-2 : PDM の変遷 (改訂版 PDM 英文)

Name of the Project: The Support for Improvement of Primary School Management

Target area: Dhading District and Rasuwa District

Project Period: February 26th 2008 ~ February 25th 2011

PDM Ver.3 (Date: November 20th, 2009)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal: The enrolment rate and dropout rate of primary school in the target area are improved.</p>	<p>3. Increase in the net enrolment rate in primary school age children in the target area 4. Improvement of the dropout rate in primary school children in the target area</p>	<p>1. Education statistics by DEO EMIS 2. Education statistics by DEO EMIS</p>	<p>MoE continues to promote the education policy for “Education for All” Socio-economic and political situation in the target areas is not worsened.</p>
<p>Project Purpose: School management is improved with community participation and with government support in the target area.</p>	<p>1-1 Number of the target schools which get the 100% of the completion rate (%) of the non-budgetary activities in their latest school year SIPs 1-2 Number of the target schools which get the 80% and above average completion rate (%) of the low budgetary activities in their latest school year SIPs. 1-3 Number of the target schools which get the 30% and above average completion rate (%) of the budgetary activities in their latest school year SIPs 1-4 Completion rate of the budgetary activities is to increase comparing to the before-SISM situation 2 The average of the satisfaction level of parents and community members with school management, of the schools, is to become “3.5” and above by 5-level rating 3. The amount (converted into NRs) contributed to school activities by parents and community members in the latest school year at the timing of the end-line survey is to increase 20% from the year 2065 in the target schools 4. As per legal provision, 75% and above of the target schools are to share the financial audit reports and the social audit reports of the latest school year with the SMCs. 5-1 No. of events, related to the school management, supported by the local government is to increase comparing to the before-SISM situation 5-2 The contents and the areas of the support. 6 Increase in the accessing to the VDC/DDC funds by the target schools</p>	<p>3. Self assessment by the SMCs 4. Focus group discussions with the parents and SMCs 1. Focus group discussion with the parents and SMCs 3. Financial data collection from the pilot schools by the SISM Project 4. Focus group discussions with the parents and SMCs 1. School audit reports - financial and social audit report 1. Focus group discussions with the parents and SMCs 2. Interview of DEO, DDC/DEC and VDC/VEC by the SISM Project 1. Focus group discussion with the parents and SMCs 2. Interview with the DEO personnel</p>	<p>MoE continues to promote the policy of school-based management. MoE continues to promote the policy of community involvement in schools</p>

Outputs: 4. The capacity of SMC to manage school by community participation is improved	1-1	100% of the target SMCs are to select members reflecting disadvantaged groups and the participation of all the members is to be improved in decision making of the SMCs comparing to the before-SISM situation.	1-1	Focus group discussions with the parents and SMCs	MoE continues to promote the policy and strategy of SMC & SIP. The budget allocation to SIP does not decrease. The budget of the DDC/VDC does not decrease. The changes of economic & political situation do not affect the activities in the target area. Frequent transfer of counterpart personnel does not occur.
	1-2	80% and above of the target schools are to have SIPs in which they reflect and prioritize the community needs in the planning section and to get “3.0” and above by 5-level rating.	1-2	Self assessment by the SMCs and rating by the DEO, SSs and RPs.	
	1-3	100% of the target schools, which have prepared the SIPs, are to include parents and community members in their SIP formulation process.	1-3	Focus group discussions with the parents and SMCs	
	1-4	50% and above of the target schools are to get “3.0” and above by 5-level rating about SMCs’ SIP implementation and monitoring.	1-1	Self assessment by the SMCs	
	1-5	The level of participation of the parents including the disadvantaged groups in the mass gathering (parental gathering, schools' annual functions etc.) is to increase comparing to the before-SISM situation	1-5	Focus group discussions with the parents and SMCs	
	1-6	The number of SMCs which could improve their planning and implementing activities for out-of-school & dropout children and the contents of the activities comparing to the before-SISM situation	1-6	Focus group discussions with the parents and SMCs	
	5. The capacity of DEO, DDC and VDC to technically and financially support school-based management is improved.	2-1	SS and RPs visit schools as provisioned in education regulations at least (3 times per month for SS, 2 times per responsible school per year for RP)	2-1	
2-2-1		100% of the schools located in the disadvantaged areas among the target schools are to be visited once by the SSs and RPs in the latest school year at the timing of the end-line survey and 80% and above of the schools located in the disadvantaged area are to be visited twice.	2-2	Questionnaire survey of the SSs and RPs by the SISM Project	
2-2-2		Purpose of visits and types of support need to be checked to understand the quality.			
2-3		The average of the SMCs’ satisfaction level with the SSs/RPs support is to get “3.0” and above by 5-level rating.	2-3	Focus group discussions with the parents and SMCs	
2-4		Number of the target schools/SMCs is to increase comparing to the before-SISM situation, which participated in the technical and financial consultation with the VDCs. And the number of the target schools/SMCs which could receive the supports from VDCs	2-4	Focus group discussions with the parents and SMCs	
2-5		Number of the target schools/SMCs is to increase comparing to the before-SISM situation, which participated in the technical and financial consultation with the DDCs. And the number of the target schools/SMCs which could receive the supports from DDCs	2-5	Focus group discussions with the parents and SMCs	
2-6		The number of the regular stakeholders’ networking meetings at the districts and VDC levels with regard to the educational issues.	2-6	Interview of DEO, DDC/DEC and VDC/VEC	
6. Policy options to suggest measures to be taken by MoE/DoE to achieve minimum quality in education nationwide are developed	3-1	The number of technical guidelines and/or measures created and submitted to MoE/DoE	3-1	Data from the SISM Project	
	3-2	The number of technical guidelines and/or measures for which MoE/DoE took some action	3-2	Data from MoE, DoE and the SISM Project	

<p>Activities:</p> <p>1-6 To raise awareness on school management among community</p> <p>1-7 To facilitate SMC to further represent the whole community</p> <p>1-8 To improve the current training targeting school/SMC for community mobilization, planning, monitoring, evaluation, and reporting</p> <p>1-9 To facilitate the participatory process of SIP development and implementation</p> <p>1-10 To facilitate school/SMC to take measures to enroll out-of-school children and to reduce dropouts</p>	<p><Nepal Side></p> <p>4. Counterparts personnel</p> <p>5. Office space and facilities in DoE & DEOs</p> <p>6. Running cost</p> <ul style="list-style-type: none"> - Project implementation: e.g. SIP training & supervise & monitor SMC - Office utility 	<p><Japan Side></p> <p>5. Experts:</p> <p>Long term</p> <ul style="list-style-type: none"> - Leader/Educational Administration - School Management/Administration - Local Educational Administration <p>Short term</p> <ul style="list-style-type: none"> - Depending on necessity <p>6. Counterpart training</p> <p>7. Equipment & materials necessary for the project</p> <p>8. Operational costs including NGO cost (as local SMC facilitator)</p>	<p>Security conditions in the target area are not worsened.</p> <p>Current government policy related to SIP & school based management is not dramatically changed.</p> <p>Political changes at the DDC/VDC level do not affect the Project's legitimacy</p> <p>Community people in the target area understand and actively collaborate with the Project activities.</p> <p>Institutional memory and institutionalization of knowledge and skills will be considered.</p>
<p>2-1 To support DEO to clarify district problems and priorities by analyzing SIP</p> <p>2-2 To facilitate DEO to take action to support technically and financially disadvantaged schools</p> <p>2-3 To support VDC to incorporate village-wide education issues in village plans</p> <p>2-4 To strengthen the network of stakeholders in education (DEO, DDC, DEC, VDC and other stakeholders) to mobilize available resources</p>			
<p>3-1 To analyze the disparities among schools both in technical and financial capacity in target area</p> <p>3-2 To examine possible measures to ready the gaps among schools</p> <p>3-3 To examine possible measures to rectify the gaps among districts</p> <p>3-4 To provide MoE/DoE with the policy suggestions to achieve the minimum quality of education and share them with other concerned organizations</p> <p>3-5 To share the lessons drawn from the target districts with other districts</p>			<p>Pre-conditions</p> <p>Security conditions in the target area are not worsened.</p> <p>MoE, DDC, VDC, DEO, community people in the target areas and other donors do not oppose to the activities</p>

添付資料 1-3 : PDM の変遷 (当初 PDM 英文)

Name of the Project: The Support for Improvement of Primary School Management

Target area: Dhading District and Rasuwa District

Version-2 (Date: October 17, 2007)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
Overall Goal: The enrolment rate and dropout rate of primary school in the target area are improved.	5. Increase in the net enrolment rate in primary education in the target area 6. Improvement of the dropout rate in primary education in the target area	Education statistics by MoES and DEO	MoES continues to promote the education policy for “Education for All”
Project Purpose: School management is improved with community participation and with government support in the target area.	1. The number of schools in the target area that have achieved target of the annual SIP planned during the Project Period.	5. Annual SIP, School activity report, NGO monitoring report, interview to DEO (SS/RP) & SMC	MoES continues to promote the policy of school-based management.
	2. The level of satisfaction of parents and community members with school management	2. Questionnaire to students, parents & community members	MoES continues to promote the policy of community involvement in schools
	3. The amount of contribution (money/labor/in kind) to school activities from parents and community members.	3. Audit report, School activity and financial report, NGO monitoring report	
	4. Transparency of the school management	4. School activity report, NGO monitoring report, Questionnaire to parents & community members	
	5. The number of actions taken by central/local government to technically & financially support school management.	5. Education policy documents, interview to MoES, DDC, VDC and DEO	
Outputs: 7. The capacity of SMC to manage school by community participation is improved	1-1 The number of SMCs which selected members reflecting disadvantaged groups	1-2 School report, interview to SMC, parents & community members	
	1-2 The number of SMCs which understand the real situation of the primary education in the community	1-3 NGO monitoring report, Questionnaire to SMC, parents & community members	
	1-3 The number of SMCs which can prepare SIP that adequately reflects the needs of the community	1-4 SIP (5 years & Annual), Appraisal report by RP, NGO monitoring report, Questionnaire to SMC, parents & community members	
	1-4 The level of participation of parents & community members in SIP formulation workshop	1-5 NGO monitoring report, School activity report	
	1-6 The number of SMCs which can adequately implement, monitor & evaluate activities of school	1-5 NGO monitoring report, RP/SS Report, Annual SIP, School activity report	

	<p>1-6 The number of parents (and community members) who participated in the mass gathering</p> <p>1-7 The level of participation of the disadvantaged groups in the mass gathering</p> <p>1-8 The number of parents & community members who have willingness to contribute to school activities</p> <p>1-9 The number of SMCs which planned and implemented activities for out-of-school & dropout children</p>	<p>1-6 School Activity report, NGO monitoring report</p> <p>1-7 School activity report, NGO monitoring report, Interview to SMC, parents & community members</p> <p>1-8 Questionnaire to SMC, parents & community members, NGO monitoring report</p> <p>1-9 Annual SIP, School activity report, NGO monitoring report</p>	
8. The capacity of DEO, DDC and VDC to technically and financially support school-based management is improved.	<p>2-1 The number of occasions (public meeting / visit to school) for DEOs (SS/RP) to understand situation of education</p> <p>2-2 The number of DEO's (SS/RP) visit and achieve to disadvantage schools</p> <p>2-3 The proportion of budget allocation to primary education of VDC</p> <p>2-4 The number of DEC meeting</p> <p>2-5 The proportion of the budget allocation to primary education by DDC</p> <p>2-6 The number of the regular networking meetings of stakeholders (DDC, DEC, VDC, DEO and other donors) in education</p>	<p>2-1 DEO activity report, School activity report, NGO monitoring report</p> <p>2-2 Questionnaire to DEO, School Record, RP activity record/reports</p> <p>2-3 VDC financial plan & record</p> <p>2-4 DEC financial plan & need</p> <p>2-5 DDC financial plan & record</p> <p>2-6 Interview to stakeholders, Meeting report</p>	
9. Policy options to suggest measures to be taken by MoES/DoE to achieve minimum quality in education nationwide are developed	3-1 The number, feasibility & quality of measures suggested	3-1 Policy suggestion documents, project documents, meeting reports with concerned organizations (DEO/DoE), Annual Review Meetings minutes	
<p>Activities:</p> <p>1-1 To raise awareness on school management among community</p> <p>1-2 To facilitate SMC to further represent the whole community</p> <p>1-3 To improve the current training targeting school/SMC for community mobilization, planning, monitoring, evaluation, and reporting</p>	<p><Nepal Side></p> <p>1. Counterparts personnel</p> <p>2. Office space and facilities in DoE & DEOs</p> <p>3. Running cost</p> <p>- Project implementation: e.g. SIP training & supervise & monitor SMC</p> <p>- Office utility</p>	<p><Japan Side></p> <p>1. Experts:</p> <p>Long term</p> <p>- Leader/Educational Administration</p> <p>- School Management/Administration</p> <p>- Local Educational Administration</p> <p>Short term</p>	<p>Security conditions in the target area are not worsened.</p> <p>Current government policy related to SIP & school based management is not dramatically changed.</p> <p>Political changes at the DDC/VDC level do not affect the Project's</p>

<p>1-4 To facilitate the participatory process of SIP development and implementation</p> <p>1-5 To facilitate school/SMC to take measures to enroll out-of-school children and to reduce dropouts</p>		<p>- Depending on necessity</p> <p>2. Counterpart training</p> <p>3. Equipment & materials necessary for the project</p> <p>4. Operational costs including NGO cost (as local SMC facilitator)</p>	<p>legitimacy</p> <p>Community people in the target area understand and actively collaborate with the Project activities.</p>
<p>2-1 To support DEO to clarify district problems and priorities by analyzing SIP</p> <p>2-2 To facilitate DEO to take action to support technically and financially disadvantaged schools</p> <p>2-3 To support VDC to incorporate village-wide education issues in village plans</p> <p>2-4 To strengthen the network of stakeholders in education (DEO, DDC, DEC, VDC and other stakeholders) to mobilize available resources</p>			<p>Pre-conditions</p> <p>Security conditions in the target area are not worsened.</p> <p>MoES, DDC, VDC, DEO, community people in the target areas and other donors do not oppose to the activities</p>
<p>3-1 To analyze the disparities among schools both in technical and financial capacity in target area</p> <p>3-2 To examine possible measures to ready the gaps among schools</p> <p>3-3 To examine possible measures to rectify the gaps among districts</p> <p>3-4 To provide MoES/DoE with the policy suggestions to achieve the minimum quality of education and share them with other concerned organizations</p> <p>3-5 To share the lessons drawn from the target districts with other districts</p>			

* Target figures are to be defined after the baseline survey

添付資料 1-4 : PDM の変遷 (PDM 改訂の理由)

プロジェクトの要約	指標		変更の理由
	当初 PDM の指標	改訂後の指標	
Overall Goal: The enrolment rate and dropout rate of primary school in the target area are improved.	1. Increase in the net enrolment rate in primary education in the target area 2. Improvement of the dropout rate in primary education in the target area	1. Increase in the net enrolment rate in primary school age children in the target area 2. Improvement of the dropout rate in primary school children in the target area	どの対象グループの指標であるかを明確にするため
Project Purpose: School management is improved with community participation and with government support in the target area.	1. The number of schools in the target area that have achieved target of the annual SIP planned during the Project Period.	1-1 Number of the target schools which get the 100% of the completion rate (%) of the non-budgetary activities in their latest school year SIPs 1-2 Number of the target schools which get the 80% and above average completion rate (%) of the low budgetary activities in their latest school year SIPs. 1-3 Number of the target schools which get the 30% and above average completion rate (%) of the budgetary activities in their latest school year SIPs 1-4 Completion rate of the budgetary activities is to increase comparing to the before-SISM situation	指標と対象グループを明確にするため
	2. The level of satisfaction of parents and community members with school management	2 The average of the satisfaction level of parents and community members with school management, of the schools, is to become “3.5” and above by 5-level rating	指標と対象グループを明確にするため
	3. The amount of contribution (money/labor/in kind) to school activities from parents and community members.	3. The amount (converted into NRs) contributed to school activities by parents and community members in the latest school year at the timing of the end-line survey is to increase 20% from the year 2065 in the target schools	指標と対象グループを明確にするため
	4. Transparency of the school management	4. As per legal provision, 75% and above of the target schools are to share the financial audit reports and the social audit reports of the latest school year with the SMCs.	指標と対象グループを明確にするため
	5. The number of actions taken by central/local government to technically and financially support school management.	5-1 No. of events, related to the school management, supported by the local government is to increase comparing to the before-SISM situation 5-2 The contents and the areas of the support.	指標と対象グループを明確にするため
		6 Increase in the accessing to the VDC/DDC funds by the target schools	どの対象グループの指標であるかを明確にするため
Outputs: 1. The capacity of SMC to manage school by community participation is improved	1-2 The number of SMCs which selected members reflecting disadvantaged groups	1-1 100% of the target SMCs are to select members reflecting disadvantaged groups and the participation of all the members is to be improved in decision making of the SMCs comparing to the before-SISM situation.	指標と対象グループを明確にするため
	1-2 The number of SMCs which understand the real situation of the primary education in the community	1-2 80% and above of the target schools are to have SIPs in which they reflect and prioritize the community needs in the planning section and to get “3.0” and above by 5-level rating.	指標と対象グループを明確にするため
	1-3 The number of SMCs which can prepare SIP that adequately reflects the needs of the community		

プロジェクトの要約	指標		変更の理由
	当初PDMの指標	改訂後の指標	
	1-8 The level of participation of parents & community members in SIP formulation workshop	1-3 100% of the target schools, which have prepared the SIPs, are to include parents and community members in their SIP formulation process.	指標と対象グループを明確にするため
	1-7 The number of SMCs which can adequately implement, monitor & evaluate activities of school	1-4 50% and above of the target schools are to get “3.0” and above by 5-level rating about SMCs’ SIP implementation and monitoring.	指標と対象グループを明確にするため
	1-6 The number of parents (and community members) who participated in the mass gathering		
	1-7 The level of participation of the disadvantaged groups in the mass gathering	1-5 The level of participation of the parents including the disadvantaged groups in the mass gathering (parental gathering, schools' annual functions etc.) is to increase comparing to the before-SISM situation	指標と対象グループを明確にするため
	1-8 The number of parents & community members who have willingness to contribute to school activities		
	1-10 The number of SMCs which planned and implemented activities for out-of-school & dropout children	1-6 The number of SMCs which could improve their planning and implementing activities for out-of-school & dropout children and the contents of the activities comparing to the before-SISM situation	指標と対象グループを明確にするため
2. The capacity of DEO, DDC and VDC to technically and financially support school-based management is improved.	2-1 The number of occasions (public meeting / visit to school) for DEOs (SS/RP) to understand situation of education	2-1 SS and RPs visit schools as provisioned in education regulations at least (3 times per month for SS, 2 times per responsible school per year for RP)	指標と対象グループを明確にするため
	2-2 The number of DEO’s (SS/RP) visit and achieve to disadvantage schools	2-2-1 100% of the schools located in the disadvantaged areas among the target schools are to be visited once by the SSs and RPs in the latest school year at the timing of the end-line survey and 80% and above of the schools located in the disadvantaged area are to be visited twice. 2-2-2 Purpose of visits and types of support need to be checked to understand the quality.	指標と対象グループを明確にするため
	2-3 The proportion of budget allocation to primary education of VDC	2-3 The average of the SMCs’ satisfaction level with the SSs/RPs support is to get “3.0” and above by 5-level rating.	指標と対象グループを明確にするため
	2-4 The number of DEC meeting	2-4 Number of the target schools/SMCs is to increase comparing to the before-SISM situation, which participated in the technical and financial consultation with the VDCs. And the number of the target schools/SMCs which could receive the supports from VDCs	どの対象グループの指標であるかを明確にするため
	2-5 The proportion of the budget allocation to primary education by DDC	2-5 Number of the target schools/SMCs is to increase comparing to the before-SISM situation, which participated in the technical and financial consultation with the DDCs. And the number of the target schools/SMCs which could receive the supports from DDCs	どの対象グループの指標であるかを明確にするため

プロジェクトの要約	指標		変更の理由
	当初 PDM の指標	改訂後の指標	
	2-6 The number of the regular networking meetings of stakeholders (DDC, DEC, VDC, DEO and other donors) in education	2-6 The number of the regular stakeholders' networking meetings at the districts and VDC levels with regard to the educational issues.	どの対象グループの指標であるかを明確にするため
3. Policy options to suggest measures to be taken by MoE/DoE to achieve minimum quality in education nationwide are developed	3-1 The number, feasibility & quality of measures suggested	3-1 The number of technical guidelines and/or measures created and submitted to MoE/DoE	どの対象グループの指標であるかを明確にするため
		3-2 The number of technical guidelines and/or measures for which MoE/DoE took some action	どの対象グループの指標であるかを明確にするため

添付資料 3 : SISM の活動・成果一覧

No.	活動	期間	内容	成果
(1) 第1年次 (2008年2月～2008年10月)				
1	ベースライン調査	2008年7月～10月	SISM チーム及びパートナーNGO によるプロジェクト受益者のベースライン状況調査	ベースライン調査報告書
2	第1回郡レベル指導員研修	2008年6月	DEO、SS、RP に対する指導員研修 (5日間)	ダディン郡 27名、ラスワ郡 14名の行政官が指導員として養成された
3	第1回 RC レベル指導員研修 (2バッチに分けて実施)	第1バッチ: 2008年6月 (8パイロット VDC 中 4VDC を対象) 第2バッチ: 2009年1月・2月 (残りの 4VDC を対象)	パイロット校 92校のそれぞれの代表 4名に対する指導員研修 (5日間)、	ダディン郡 272名、ラスワ郡 96名の学校代表(学校及び SMC 関係者) が指導員として養成された
4	SIP オリエンテーション (2バッチに分けて実施)	第1バッチ: 2008年8月 (8パイロット VDC 中 4VDC を対象) 第2バッチ: 2009年2月・3月 (残りの 4VDC を対象)	パイロット校 92校を対象としたオリエンテーション (3日間)	ダディン郡 1,972名、ラスワ郡 576名の SMC/PTA メンバー及び生徒がオリエンテーションを受けた
5	VEP オリエンテーション (2バッチに分けて実施)	第1バッチ: 2008年9月 (8パイロット VDC 中 4VDC を対象) 第2バッチ: 2009年1月・2月 (残りの 4VDC を対象)	VEP の役割・内容について協議するワークショップを実施 (3日間)	VDC/VEC メンバー、校長、SMC/PTA リーダー、政党関係者、現地 NGO、チャイルド・クラブ代表、他の現地グループが参加
6	DEP オリエンテーション	2008年9月	DEP 更新及び実施をどのように強化するかについて協議するワークショップを実施 (2.5日間)	DEO、校長、教員、SMC、DDC プランニング・オフィサー、VDC セクレタリー、政党関係者、議員、ダリット・グループ、NGO が参加
(2) 第2年次 (2008年11月～2009年10月)				
7	第2回郡レベル指導員研修	2008年12月	DEO、SS、RP に対する指導員再研修 (4日間)	郡レベル指導員が再研修を受けた
8	VEP ワークショップ (2バッチに分けて実施)	第1バッチ: 2009年1月・3月 第2バッチ: 2009年4月・5月	VEP の作成方法について協議し、VEP 作成のためのアクションプランを作成するワークショップを実施 (3日間)	VDC/VEC メンバー、校長、SMC/PTA リーダー、母親グループ、政党関係者、現地 NGO、他の現地グループが参加
9	SIP 更新のフォローアップ及びアプレイザル	2009年2月～9月	SS 及び RP による指導及びモニタリング	91校で 2066年～2070年 (2009/10 -2013/14) をカバーする SIP (5カ年計画) が作成された
10	CP 本邦研修	2009年4月	地方教育行政及び学校運営に関する研修	教育省、教育局、郡教育事務所から 7名の行政官が参加

No.	活動	期間	内容	成果
11	DEP プロファイリング・ワークショップ	2009年4月	DEP のデータ・セクションを作成するためのワークショップ (2日間)	郡教育事務所、教員組合、校長、政党関係者、地域グループ、NGO、女性グループ等が研修を受けた
12	DEP 更新ワークショップ	2009年5月	DEP の計画策定セクションに関するワークショップ (2.5日間)	郡教育事務所、教員組合、校長、政党関係者、地域グループ、NGO、女性グループ等が研修を受けた
13	内部中間評価	2009年5月～7月	データ収集 (質問票及びインタビュー) と分析	内部中間評価報告書
14	第3回郡レベル指導員研修 (SMC/PTA 研修向け)	2009年8月	郡レベル指導員再研修 (1.5日間)	郡レベル指導員が再研修された
15	第2回 RC レベル指導員研修 (SMC/PTA 研修向け)	2009年8月・9月	各パイロット校(92校)の代表4名ずつに対する再研修 (3日間)	ダディン郡 278名、ラスワ郡 92名の RC レベル指導員が再研修を受けた
16	中央レベルでのマイクロプランニング及びモニタリング・評価研修	2009年9月	マイクロプランニング及びモニタリング・評価に関する研修 ((2.5日間)	教育省、教育局、パイロット/ノンパイロット郡教育事務所から 44名の行政官が研修を受けた
17	第1回 SISM 成果普及ネットワーキング・ワークショップ	2009年9月	SISM の第1年次及び第2年次の成果をプロジェクト内外の関係者と共有	教育省・教育局行政官、パイロット郡の DDC・郡教育オフィサー・SS/RP、NGO、他ドナー、国際 NGO、他の JICA 支援プロジェクト、JOCV 等 111名が参加
(3) 第3年次 (2009年11月～2011年2月)				
18	ノンパイロット郡との研修ガイド普及ワークショップ	中央リージョン： 2009年12月 西部リージョン： 2010年3月 東部リージョン： 2010年8月	SISM の成果を共有し、SMC/PTA 研修用の研修ガイドを共有・レビュー	3リージョンの 61名の郡教育行政官またはセクション・オフィサーが参加
19	SMC/PTA 研修	2009年12月～2010年3月	SMC の学校運営能力向上のための研修 (3日間)	ダディン郡 1,977名、ラスワ郡 624名の SMC/PTA メンバーが研修を受けた
20	情報交換ワークショップ (スタディ・ツアー)	2010年1月	マクワンプール郡及びチトワン郡を訪問して、両郡教育事務所及び学校関係者との情報・経験交換 (5日間)	41名の郡レベル指導員が参加
21	学校保健栄養改善プロジェクト (JICA 支援) のパイロット郡に対する郡レベル指導員研修	2010年2月	シャンジャ郡及びシンドパルチョーク郡の郡教育オフィサー、SS/RP に対する研修 (5日間)	シャンジャ郡 21名、シンドパルチョーク郡 19名の教育行政官及び RP が研修を受けた

No.	活動	期間	内容	成果
22	第4回郡レベル指導員研修	2010年5月・6月	郡レベル指導員に対する再研修(2日間)	郡レベル指導員が再研修を受けた
23	ノンパイロット校に対するRCレベル指導員研修(教育局予算で実施)	2010年5月～7月	各ノンパイロット校(602校)の2名ずつ選ばれたRCレベル指導員への研修(3日間)	ダディン郡で2,072名、ラスワ郡で320名が研修を受けた
24	エンドライン調査	2010年5月～10月	データ収集(質問票、フォーカスグループインタビュー)及び分析	エンドライン調査報告書
25	CPに対する第三国研修(インドネシア)	2010年6月	インドネシアの地方教育行政を学び、JICA教育プロジェクト(PELITA)と情報交換	教育省・教育局の6名の行政官が参加
26	SIP更新のフォローアップとSIP年次計画作成	2010年6月・7月	SIP年次計画作成に関して、SS/RPによる指導と活動モニタリング	パイロット校91校においてSIP年次計画が作背された
27	ノンパイロット校におけるSMC/SIP研修	2010年7月～10月	各ノンパイロット校において学校運営に関する研修実施(2日間)	ノンパイロット校602校においてSMC/PTAメンバー、教員、生徒等が研修を受けた
28	内部終了時評価	2010年10月	ベースライン調査の結果及びヒアリングに基づくプロジェクトの進捗と達成度に関する内部評価	内部終了時評価報告書
29	VEPレビュー及び年次活動計画作成ワークショップ	2010年6月～9月	VDCレベルで教育関係者がVEP及びSIPを共有(1日間)	VDC/VECメンバー、校長、SMC/PTA議長・メンバー、政党関係者等が参加
30	CP本邦研修	2010年12月	地方教育行政及び学校運営に関する研修(9日間)	教育省、教育局、リージョン教育局の行政官、及びパイロット郡の郡教育オフィサー計6名が参加
31	第2回SISM成果普及ネットワークワーキング・ワークショップ	2011年2月	SISMの3年間の成果・経験を共有し、教育関係者とのネットワークを強化するためのワークショップ(1.5日間)	教育省・教育局の行政官、パイロット郡のDDC・DEO及びSS/RP、近隣郡の郡教育オフィサー、NGO、他ドナー、他のJICA支援プロジェクト、JOCV等140名が参加

添付資料 4 : SISM の対象と活動内容

	活動	パイロット郡 (ダディン郡及びラスワ郡)			パイロット郡 以外の 73 郡 (DEO)	
		パイロット校 92 校	ノンパイロット 校 602 校	8つのパイロ ット VEC		
SISM モデルのステップ	郡レベル指導 員研修				パイロット郡 の全 SS 及び RP が郡レベ ル指導員研修 を受けた (4 回)	シャンジャ郡及 びシンドバルチ ヨーク郡の SS/RP が郡レ ベル指導員研修 を受けた
	RC レベル指 導員研修	各学校から 4 名 ずつの代表が研 修参加	各学校から 2 名 ずつの代表が研 修参加			
	SIP オリエ ンテーション	パイロット校 92 校で SMC/PTA メンバーが参加				
	SIP 更新とア プレイザル	SIP (5 年計画) が更新されアプ レイザルを受け た				
	SMC/PTA (または SMC/SIP) 研 修	SMC/PTA メン バーが、SMC の 役割及び SIP 更 新について 研修 を受けた	SMC/PTA メン バーが、SMC の 役割及び SIP 更 新について 研修 を受けた			
	SIP 年次計画 作成	年次 SIP が作成 された	年次 SIP を作成 中			
	研修ガイド普 及ワークショ ップ					3 リージョンの 51 郡の DEO が 研修参加
VEP 更新	VEP オリエ ンテーション及 びワークショ ップ			VEC が VEP 作成に関し 研修を受け た VEP が作成 された		
	VEP レビュー 及び年次活動 計画作成ワー クショップ			VEC メンバ ーと学校 /SMCメンバ ーが VEP と SIP を共有		
DEP 更新	DEP オリエ ンテーション及 び更新ワー クショップ				DEO 及び DECメンバ ーが DEP 更 新に関して研 修を受けた	

添付資料 5 : SISM で作成した成果品リスト

No.	成果品	作成時期	作成目的・対象者等
1	SIP オリエンテーション用研修ガイド	2008年6月	- SIP オリエンテーション用に作成。のち、SMC/PTA 研修用ガイドに一部を含めた。
2	ベースライン調査報告書	2008年10月	- 教育省、教育局、JICA へ提出した。
3	DEP ガイドライン (ドラフト)	2009年2月	- 教育局がDEPガイドラインを改定する際に参照した。
4	RC プロファイル (ドラフト)	2009年3月	- Used in the DEP profiling, but not well prepared and accepted by RPs
5	内部中間評価報告書	2009年7月	- 教育省、教育局、JICA へ提出した。
6	SMC/PTA 研修ガイド (TG)	2009年9月	- 3000部コピー製本 - パイロット郡の全SS/RPに配布 - 全国75郡のDEOに2部ずつ配布 - TG普及ワークショップで中央、西部、東部リージョンのDEOに説明・配布 - 教育局ウェブ・サイトの「ガイドライン及びマニュアル」のページからダウンロード可能
7	SIP 年次計画フォーマット (ドラフト)	2010年7月	- パイロット校及びノンパイロット校で試行
8	VEP レビュー及び年間活動計画フォーマット (ドラフト)	2010年7月	- パイロットVDC/VECで試行
9	SISM モデルによる SMC/PTA 能力向上計画 (素案)	2010年9月	- 教育局へ提出 - コメント待ち
10	政策提言 I	2010年5月	- 教育省、教育局、JICA へ提出
11	エンドライン調査報告書	2010年9月	- 教育省、教育局、JICA へ提出
12	内部終了時評価報告書	2010年10月	- 教育省、教育局、JICA へ提出
13	SMC/PTA 研修ガイド (TG) 第2版	2010年11月	- 1000部を製本コピー - 第2回SISM成果普及ワークショップでパイロット郡のSS/RPへ配布 - 教育局が2011年2月に実施予定のリージョンごとのASIP説明会合で配布予定
14	政策提言 II	2011年1月	- 教育省、教育局、JICA へ提出
15	SISM 活動・成果に関するDVD (20分間)	2011年1月	- 教育省、教育局、JICA へ提出 - その他SISM関係者に配布
16	進捗報告書及び年次報告書	6カ月ごと	- 教育省、教育局、JICA へ提出
17	事業完了報告書	2011年2月	- 教育省、教育局、JICA へ提出

添付資料 6-1 : 投入実績 1 – 専門家派遣実績 (メンバーリスト)

氏名	所属先	担当分野
日本人専門家		
1) 石田 洋子	株式会社国際開発センター	総括／教育行政 ／モニタリング・評価(第3年次)
2) 渡辺 真美	株式会社国際開発センター	地方教育行政／財政1
3) 田中 清文	株式会社国際開発センター	地方教育行政／財政2
4) 鶴田 厚子	株式会社国際開発センター	学校運営
5) 大西 洋成	株式会社国際開発センター	モニタリング・評価(第1年次) 業務調整(第3年次後半)
6) 作増 良介	株式会社国際開発センター	モニタリング・評価(第2年次) 業務調整(第2年次)
7) 戸田 陽一郎	株式会社国際開発センター	業務調整(第1年次)
8) 宇津木 絵	株式会社国際開発センター	業務調整(第3年次前半)
ネパール人プロジェクト・スタッフ		
9) カゲンドラ・クマール・スッパ	個人コンサルタント	ナショナル・プロジェクト・コーディネーター
10) ビシュヌ・プラサド・アチャルヤ	個人コンサルタント	教育行政／研修オフィサー
11) アニマ・パサック	個人	秘書
12) スピール・シュレスタ	個人	IT コーディネーター／事務所アシスタント
13) ディネシュ・シャヒ	個人	ドライバー

添付資料 6-2 : 投入実績 1 - 専門家派遣実績 (人月表 1 年次)

評価対象	担当	氏名	所属	格付	第1年次										第1年次			
					2007年度					2008年度					現地	国内		
					1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月				
◎ 現 地 調 査	1. 総括／教育行政	石田 洋子	IDCJ	2			23 ■ (30)	21 ■			18 ■ (36)	23 ■			10 ■ (30)	9 ■	3.20	
	2. 地方教育行政／財政 1	渡辺 真美	IDCJ	3			23 ■ (57)	18 ■				21 ■ (18)	7 ■				2.50	
	3. 地方教育行政／財政 2	田中 清文	IDCJ	3										23 ■ (45)	6 ■		1.50	
	4. 学校運営	鶴田 厚子	IDCJ	3			9 ■ (109)				25 ■			3 ■ (26)	28 ■		4.50	
	5. モニタリング・評価	大西 洋也	IDCJ	4								25 ■ (54)		16 ■			1.80	
	6. 業務調整	戸田陽一郎	IDCJ	4		25 ■ (60)		24 ■									0.00	
																	13.50	
◎ 国 内 調 査	1. 総括／教育行政	石田 洋子	IDCJ	2			□ (3)											0.10
	2. 地方教育行政／財政 1		IDCJ	3														0.00
	3. 地方教育行政／財政 2		IDCJ	3														0.00
	4. 学校運営		IDCJ	3														0.00
	5. モニタリング・評価		IDCJ	4														0.00
																		0.10
																		13.60

添付資料 6-3 : 投入実績 1 - 専門家派遣実績 (人月表 2 年次)

	担 当	氏 名	所属	格付	第2年次										第2年次	
					2008年度					2009年度					現地	国内
					11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
現地調査	1. 総括／教育行政	石田 洋子	IDCJ	2	12/6-12/21 (16)	1/17-1/21 (5)			3/28-4/5 (9)	4/14-26 (15)	5/2-5/16	7/11-8/12 (33)	8/23-10/9 (48)	4.20		
	2. 地方教育行政 ／財政 1	渡辺 真美	IDCJ	3	11/28-12/22 (25)	1/5-2/21 (48)			3/21-4/3 (14)	4/14-26 (13)	5/6-14 (9)	7/6-30 (25)	8/13-18 (6)	4.67		
	3. 地方教育行政 ／財政 2	田中 清文	IDCJ	3					3/8-5/16 (70)					2.33		
	4. 学校運営	鶴田 厚子	IDCJ	3	11/15-2/6 (84)						5/11-6/18 (39)	7/15-9/15 (64)		6.23		
	5. モニタリング・ 評価	作増 良介	IDCJ	4							5/25-7/2 (39)			1.30		
	6. 業務調整	作増 良介	IDCJ	4	11/15-12/14 (30)		2/13-3/14 (30)							(30)	(3.00)	
小計 (業務調整を除く)													18.73			
国内作業	1. 総括／教育行政	石田 洋子	IDCJ	2		□ (10)		□ (5)							0.50	
	2. 地方教育行政 ／財政 1		IDCJ	3											0.00	
	3. 地方教育行政 ／財政 2		IDCJ	3											0.00	
	4. 学校運営		IDCJ	3			□ (15)								0.50	
	5. モニタリング・ 評価		IDCJ	4											0.00	
小計													1.00			
合計													19.73			

添付資料 7-4 : 投入実績 1 - 専門家派遣実績 (人月表 3 年次)

評価対象	担 当	氏 名	所属	格付	第3年次																第3年次	
					2009年度				2010年度								現地		国内			
					11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
◎	現 地 作 業	1. 総括／教育行政	石田 洋子	IDCJ	2		12/18 (1)		1/31-2/20 (21)			5/18-7/3 (47)	7/11-7/22 (12)	8/19-9/17 (30)	10/1-11/24 (55)	12/1-18 (18)	1/18-2/15 (29)	7.10				
◎		2. 地方教育行政 ／財政 1	渡辺 真美	IDCJ	3			1/28-3/4 (36)			5/22-6/19 (29)		7/26-8/15 (21)				1/28-2/1 (5)	3.03				
◎		3. 地方教育行政 ／財政 2	田中 清文	IDCJ	3					5/4-6/12 (40)			8/9-9/22 (45)						2.83			
◎		4. 学校運営	鶴田 厚子	IDCJ	3		11/15-1/17 (64)			4/3-6/19 (78)			8/7-10/5 (60)		10/26-11/25 (31)		1/15-2/13 (30)	8.77				
		5. モニタリング・ 評価	作増 良介	IDCJ	4					3/30-4/28 (30)									1.00			
		6. 業務調整	作増 良介	IDCJ	4				2/28-3/29 (30)										(1.00)			
	宇津木 絵		IDCJ	4									10/18-11/10 (24)					(0.80)				
	大西 洋也		IDCJ	4												1/19-2/3 (16)		(0.53)				
現地小計変更後 (業務調整を除く)																		22.73				
◎	国 内 作 業	1. 総括／教育行政	石田 洋子	IDCJ	2														0.00			
◎		2. 地方教育行政 ／財政 1		IDCJ	3															0.00		
◎		3. 地方教育行政 ／財政 2		IDCJ	3															0.00		
◎		4. 学校運営		IDCJ	3															0.00		
		5. モニタリング・ 評価		IDCJ	4															0.00		
国内小計 合計																		0.00	22.73			

添付資料 7 : 投入実績 2-カウンターパート (CP) リスト

No.	氏名	CPであった期間	役職	所属先
プロジェクト・ディレクター				
1-1	ジャーナルダン・ネパール	プロジェクト開始時から 2009年12月まで	局長	教育局
1-2	マハシュラム・シャルマ	2009年12月から2010年2 月まで	局長	教育局
1-3	ハリボル・カナル	2010年2月から2010年8 月まで	局長	教育局
1-4	ラバ・デオ・アワステイ	2010年8月からプロジェクト 終了時まで	局長	教育局
プロジェクト・マネジャー				
2-1	ハリ・プラサド・ラムサル	プロジェクト開始時から 2010年9月まで	課長	教育局計画予算部
2-2	デバック・シャルマ	2010年9月からプロジェクト 終了時まで	課長	教育局計画予算部
プロジェクト・オフィサー／研修タスクフォース				
3	ジーバン・シャルマ・ポウ デル	2008年4月から2011年1 月まで	課長	教育局学校運営部 (中等教育)
4-1	ニバ・ラジ・ジョシ	2008年4月から2010年6 月まで	課長	教育局学校運営部 (初等教育)
4-2	ハリ・ガウタム	2010年6月からプロジェクト 終了時まで	課長	教育局学校運営部 (初等教育)
5	クリシュナ・プラサド・ド ウンガナ	プロジェクト開始時から プロジェクト終了時まで	係長	教育局計画予算部
6	メガナチ・シャルマ	プロジェクト開始時から プロジェクト終了時まで	担当官	教育局計画予算部
7	サンカル・バハドウル・シ シャルマ	プロジェクト開始時から プロジェクト終了時まで	係長	教育局統計担当
8	ジャーナルダン・ネパール	プロジェクト開始時から プロジェクト終了時まで	係長	教育局計画予算部
9	カガラジ・パウデル	プロジェクト開始時から プロジェクト終了時まで	係長	教育局計画予算部
パイロット郡・ダディン郡				
10-1	ラジャ・ラクシミ・ナカル ミ	プロジェクト開始時から 2009年4月まで	郡教育オ フィサー	教育局ダディン教 育事務所
10-2	マン・バハドウル・チェト リ	2009年4月からプロジェクト 終了時まで	郡教育オ フィサー	教育局ダディン教 育事務所
パイロット郡：ラスワ郡				
11-1	バラ・ラム・K.C.	プロジェクト開始時から 2008年12月まで	郡教育オ フィサー	教育局ラスワ教育 事務所
11-2	ラマ・パンティ	2009年1月から2009年12 月	郡教育オ フィサー (臨時)	教育局ラスワ教育 事務所
11-3	ダモダール・アチャルヤ	2010年1月から2010年12 月	郡教育オ フィサー	教育局ラスワ教育 事務所
11-4	シーバン・シャルマ・ポウ デル	2010年11月からプロジェ クト終了時まで	郡教育オ フィサー	教育局ラスワ教育 事務所

添付資料 8 : 投入実績 3-CP 研修実施実績

派遣メンバー氏名	研修の目的
(1) 本邦研修 : 2009年4月5日～19日 (東京及び島根県松江市)	
1. ラム・プラベシュ・ヤダヴ (教育省局長) 2. ビシュヌ・クマール・デブコタ (教育局 部長) 3. ハリ・プラサド・ラムサール (教育局課 長) 4. ニブ・ラジ・ジョシ (教育局課長) 5. ヤダブ・プラサド・コイララ (教育局課 長) 6. ラジャ・ラクシミ・ナカルミ (ダディン 郡郡教育オフィサー) 7. ラマ・アリヤル (ラスワ郡郡教育オフィ サー)	1. 日本における中央教育行政に関する情 報及び教訓を学ぶ 2. 日本における地方教育行政 (島根県松江 市) に関する情報及び教訓を学ぶ 3. SISMの主要CP、JICA本部、SISMチーム 間で情報共有と協議を行うことによっ て相互理解を深める
(2) 第三国 (インドネシア) 研修 : 2010年5月23日～31日 (ジャカルタ及びジョグジャ カルタ)	
1. ハリボル・カナル (教育局局長) 2. アショク・クマール・アリヤル (教員サ ービス委員会事務局長) 3. バララム・ティマルシナ (教育局課長) 4. ビム・バハドウル・サウド (教育局オフ ィサー) 5. ビルル・ラジ・ギリ (教育省課長) 6. デバック・ラミチャネ (教育省教育担当 オフィサー)	1. インドネシアでJICA支援によって実施 されている教育プロジェクトPELITAの 情報及び教訓を共有し、住民参加による 学校運営・教育の質の改善のあり方を学 ぶ 2. インドネシア地方行政から、教育分野の 地方分権化・権限移譲を学ぶ
(3) 本邦研修 : 2010年12月18日～26日 (東京)	
1. ハリ・バシヤル (教育局総務部長) 2. バラ・ラム・K.C. (中央リージョン教育 事務所所長) 3. マン・バハドウル・チェトリ (ダディン 郡郡教育オフィサー) 4. バイクンタ・ジャー (ラスワ郡教育事務 所スクール・スーパーバイザー) 5. ジャナルダン・ネパール (教育省計画局 局長) 6. ギャン・ダルシヤン (教育省総務局局長)	1. 日本の中央政府から、日本の政策策定、 プログラム・プロジェクト形成、モニタ リング・評価の仕組みを学ぶ 2. SISM終了後のSISM成果の普及方法と今 後のネパールと日本の教育分野におけ る協力についてJICA本部で協議する。

添付資料 9 : 投入実績 4-モニタリング・評価

No.	モニタリング・評価	期 間	実施者	目 的	成 果
レビュー／評価					
1	ベースライン調査	2008年7月～10月	SISM プロジェクト・チーム及びパートナーNGO	対象グループのプロジェクト活動実施前の状況に関するデータを収集する。	ベースライン調査報告書
2	内部中間評価	2009年5月～7月	教育局 CP、SISM プロジェクト・チーム、パートナーNGO	プロジェクト中間地点での進捗をプロジェクト関係者で確認 JICA 中間レビューへの情報提供	内部中間評価報告書
3	JICA 中間レビュー	2009年7月	JICA 中間レビュー・チーム及び教育省評価チーム	プロジェクト中間地点での妥当性、進捗、達成度、効率性等について確認し、実施改善のための提言等を協議・作成。また PDM の見直し	中間レビュー・ミニッツ
4	エンドライン調査	2010年5月～10月	SISM プロジェクト・チーム及びパートナーNGO	対象グループのプロジェクト活動実施後の状況・変化に関するデータを収集する。	エンドライン調査報告書
5	第三者評価	2010年7月～8月	外部コンサルタント（カトマンズ大学教授）	プロジェクトの進捗・達成度・インパクトを第三者の視点から評価。提言を作成。	第三者評価報告書
6	内部終了時評価	2010年10月	教育局 CP、SISM プロジェクト・チーム、パートナーNGO	プロジェクト終了時での進捗・達成度をプロジェクト関係者で確認 JICA 終了時評価への情報提供	内部終了時評価報告書
7	JICA 終了時評価	2010年10月～11月	JICA 終了時評価チーム及び教育省評価チーム	プロジェクト終了時での妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性等について確認。プロジェクトの成果及びインパクトの普及強化のための提言・教訓等を協議・作成	終了時評価ミニッツ
定期モニタリング					
8	月次モニタリング報告書	2008年3月～2011年2月の毎月	パートナーNGO	パイロット郡におけるパートナーNGO の活動報告	月次報告書（活動・財務）
9	隔月会合	2008年2月～2011年2月の間のほぼ隔月	SISM プロジェクト・チーム	郡、RC、学校レベルのプロジェクト活動のモニタリング	隔月会合議事録
9	ARM 会合	2008年2月～2011年2月の間、6カ月に1回開催	SISM プロジェクト・チーム	中央、郡、RC、学校レベルのプロジェクト活動の進捗報告	ARM 会合議事録

添付資料 10 : 投入実績 5-JICA 関連案件との連携実績

案件名	協力内容
<p>子どものためのコミュニティ主体型ノンフォーマル教育プロジェクト (CASP)</p>	<ul style="list-style-type: none"> - ダディン郡はCASP及びSISMともにパイロット郡であり、ダディン郡とすでに活動していた CASP から様々な教訓を得た。 - 実施中は、適宜情報交換を行った。 - CASP が 2009 年 9 月に終了後は、CASP の成果 (パンフレット、マニュアル等) を SISM で配布することに協力した
<p>「万人のための教育」支援のための小学校建設計画 (無償資金協力、フェーズ II)</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 同案件もダディン郡を対象郡 15 郡の一つとした。 - ダディン郡で建設対象とする学校に SISM パイロット校が 4 校程度含まれており、SIP 作成と建設事業・維持管理との調整を試みたが、実施中は双方のタイミングが合わず困難であった。 - お互いのプロジェクトの進捗は共有しあった。
<p>学校保健栄養改善プロジェクト (SHNP)</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 同じ教育分野の案件であり、活動・成果等、効果的に共有・相互活用が行うことができた。 - SISM では、3 年次の初めに、SHNP の要請に基づいて、SHNP パイロット郡であるシャンジャ郡及びシンドパルチョーク郡の郡教育事務所メンバーに対して郡レベル指導員研修 (それぞれ 5 日間) を行った。
<p>コミュニティへの働きかけを通じた公立小学校教育の質の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニティ参加による学校運営改善という点で、SISM と本案件の類似点は多く、実施を担当する Save the Children Japan と情報交換を行った。 - SISM プロジェクト・メンバーが情報交換のために本案件サイトを訪問した。 - 現地で活動支援を行っている NGO は SISM と同じ Aasaman であり彼らの経験・教訓も共有できた。 - SISM は山岳及び丘陵地域、本案件はタライ地域を対象としており、両者のアプローチは異なった。
<p>JOCV 及びシニア・ボランティア</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 当初は教育局 EMIS 部門の JOCV と教育データの共有、統計改善等で有益な協力できた。 - バクタプール郡の RC の JOCV 及び教育開発センターのシニア・ボランティアの方と対象も類似することから情報共有を行った。 - 第 1 回 SISM 成果普及ワークショップでは JOCV の方に日本の教育の状況とネパールでの経験について発表をしてもらった。 - JOCV の担当する学校での授業研究に参加した。 - JOCV 及びシニア・ボランティアの方も SISM の VDC 及び学校レベルの活動にオブザーバー参加した。

添付資料 1 1 : 投入実績 6－現地業務費実績

(単位：NRs)

費 目	第 1 年次 (2007/08)	第 2 年次** (2008/09)	第 3 年次*** (2009/10)	合計
1. プロジェクト運営費	6,857,000	20,309,000	30,043,000	57,209,000
各種研修、ARM 及び隔月会 合、NGO 再委託費、資機材 維持管理、資料複写費、本 邦研修及び第三国研修費 用等	4,244,405	14,366,000	22,747,000	41,357,405
プロジェクト人件費、文 具、通信費、交通費、通信 費等	2,612,595	5,943,000	7,296,000	15,851,595
2. 車両、資機材等購入費	3,095,828	253,000	0	3,348,828
合計	9,952,828	20,562,000	30,043,000	60,557,828

注) 第 3 年次は 2011 年 2 月までの実績値

*1.00 円=1.291NRs(2009 年 6 月 JICA 月次レート)

**1.00 円=1.186NRs(2009 年 10 月 JICA 月次レート)

***1.00 円=1.165NRs(2011 年 1 月 JICA 月次レート)

添付資料 1 2 : 投入実績 7ー現地 NGO 再委託業務内容

1. メンバーリスト

郡	NGO 名	メンバー名
ダディン郡	Aasaman Nepal	<p><u>チーム・メンバー :</u></p> <p>Mr. Sanjeev Gupta Mr. Punya Prasad Pokharel Mr. Ram Naresh Raut Mr. Dineshwar Shah (1st and 2nd Project Year)</p> <p><u>コミュニティ・モビライザー :</u></p> <p>Ms. Radhika Adhikari Ms. Kalpana Rijal Ms. Phulmaya Shakya Mr. Prem Garai Mr. Ranjit Ghale Ms. Ganga Kadel Ms. Muna Lamsal Ms. Manjana Shrestha</p>
ラスワ郡	SEARCH-Nepal	<p><u>チーム・メンバー :</u></p> <p>Mr. Bidur Thapa Mr. Shree Krishna Poudel Mr. Subash Gurung (1st and 2nd Project Year)</p> <p><u>コミュニティ・モビライザー :</u></p> <p>Mr. Govinda Maagar Ms. Lakpa Buti Tamang Ms. Buddha Maya Tamang</p>

2. 再委託の業務範囲 (ToR)

(1) 再委託の背景

本プロジェクトの目標は「プロジェクト対象地域において、住民参加および政府の支援により学校運営が改善されること」であった。このプロジェクト目標達成のために、本プロジェクトは、中央政府（教育省及び教育局）、郡教育事務所、小学校（学校マネジメント及び学校運営委員会）と、初等教育に関連する各層にアプローチし、カスケード式の研修を通して、学校改善計画の作成と実施に焦点を当てて、住民参加による学校運営強化のための人材育成とモニタリング体制強化に対する支援を行った。

このように多岐に亘る活動を実施するとともに、ジェンダーや少数民族、低カーストの問題など、ネパール特有の課題にも適切に対応するに当たって、リソース・センター及び学校レベルのコミュニティに近いレベルの業務をネパールのローカルNGOに再委託することにより、コミュニティ・モビライゼーションを強化し、より効果的で効率性の高い成果を狙った。

2. 再委託業務の概要

ローカルNGOへの再委託については、ダディン郡における業務について1つのNGO (Aasaman Nepal)、ラスワ郡の業務について1つのNGO (SEARCH-Nepal) と、合計2つのローカルNGOと再委託契約を結んで、業務を行った。

ローカルNGOへの主な再委託業務は以下の通り。

- 1) ベースライン調査及びエンド・ライン調査の実施。
- 2) リソース・センター (RC) レベル及びパイロット校において、郡教育事務所とSS/RP等が行う学校運営委員会 (SMC) 対象の学校改善計画 (SIP) オリエンテーションの計画作成、準備、コミュニティ・モビライゼーション、実施支援
- 3) 同上によるSMC/PTA研修の計画作成、準備、コミュニティ・モビライゼーション、実施支援
- 4) 同上によるSIP (5か年計画) 更新・アプライザル及びSIP年次計画作成支援
- 5) パイロット校によるエンロールメント・キャンペーン、チャイルド・フレンドリー・スクール研修、母親グループ活動、チャイルド・クラブ活動などSIPの活動の実施・モニタリング支援
- 6) パイロット郡パイロット校による情報交換ワークショップ実施支援
- 7) パイロット郡SS/RPによるチトワン郡及びマクワンプール郡との情報交換ワークショップ実施支援
- 8) RCレベル及びノン・パイロット校においてSS/RP等が行うSMC/SIP研修の計画作成、準備、コミュニティ・モビライゼーション、実施支援
- 9) VDCの村落教育計画 (VEP) 作成研修への支援
- 10) SMCメンバーに適切なメンバーが選出され、SMCが機能し、かつSIPに沿った活動が行われるようにSS/RPが行うSMC指導への支援
- 11) 郡教育事務所及びSS/RP等が行う郡教育計画 (DEP) 作成研修実施支援

添付資料 1 3 : 投入実績 8- 供与機材実績

No.	機材名	仕様等	数量	使用場所
1	四輪駆動車	Nissan, Patrol	1	プロジェクト事務所
2	モーターバイク	Bajaj	1	ラスワ郡教育事務所
3	ラップトップ・コンピューター	HP	2	ダディン郡及びラスワ郡教育事務所
4	デスクトップ・コンピューター	HP	3	プロジェクト事務所
5	複合機 (コピー機、スキャナ、ファクシミリ)	Canon IR2022N	1	プロジェクト事務所
6	UPS	UPS1000, IIT	1	プロジェクト事務所
7	スタビライザー	AVR-2000N	1	プロジェクト事務所
8	デジタル・カメラ	Nikon	1	プロジェクト事務所
9	ボイス・レコーダー	Sony	1	プロジェクト事務所
10	携帯電話	Nokia	5	プロジェクト事務所
11	CDMA	B-link	2	プロジェクト事務所
12	複写機台	現地注文	1	プロジェクト事務所
13	コンピュータ・デスク	現地注文	4	プロジェクト事務所
14	椅子 (大)	-	2	プロジェクト事務所
15	椅子 (小)	-	5	プロジェクト事務所
16	プラスチック椅子	-	6	プロジェクト事務所
17	ホワイトボード (大)	-	1	プロジェクト事務所
18	ホワイトボード (小)	-	1	プロジェクト事務所
19	木製フリップチャート・ボード	現地注文	3	プロジェクト事務所
20	電卓	--	4	プロジェクト事務所
21	電気ストーブ	-	2	プロジェクト事務所
22	ガスストーブ	-	1	プロジェクト事務所
23	アンチウイルス・ソフト (KIS Antivirus (CD))	Kaspersky Lab	4	プロジェクト事務所

添付資料 1 4 : 相手国との会議議事録 (ARM との会合)

1. ARM との会合の概要

No.	日付	主な議事
キックオフ会合	2008年4月22日	<ol style="list-style-type: none"> SISM の概要総会 パイロット VDC 及び学校の選出 DEO、RC、VDC、SMC での研修プログラム設計のための情報収集 SISM プロジェクトの実施体制について
第1回会合	2008年7月22日	<ol style="list-style-type: none"> プロジェクト進捗報告 ダディン郡・ラスワ郡郡教育事務所からの報告 郡レベル指導員研修・RC レベル指導員研修実施報告 今後の活動予定
第2回会合	2008年11月24日	<ol style="list-style-type: none"> プロジェクト進捗報告 ダディン郡・ラスワ郡郡教育事務所からの報告 SIP 作成及びフォローアップに関する報告 今後の活動予定
第3回会合	2009年5月22日	<ol style="list-style-type: none"> CP 本邦研修参加者からの報告 内部中間評価に関する報告 ダディン郡・ラスワ郡郡教育事務所からの報告 SIP/VEP 作成及びフォローアップの進捗報告 JICA 中間レビューの実施について 今後の活動予定
第4回会合	2009年10月20日	<ol style="list-style-type: none"> 第2年次完了報告書に関する報告 プロジェクト PDM の更新について (協議) ダディン郡・ラスワ郡郡教育事務所からの報告 今後の活動予定
第5回会合	2010年5月21日	<ol style="list-style-type: none"> 第3年次前半の進捗報告 ダディン郡・ラスワ郡郡教育事務所からの報告 今後の活動予定
第6回会合	2011年2月31日	<ol style="list-style-type: none"> SISM プロジェクトの達成度・成果に関する報告 パイロット郡郡教育事務所及びパートナーNGO からの報告 CP 本邦研修の報告 終了時評価結果及び政策提言 SISM プロジェクトの終了に当たって (今後の成果の活用などに関する協議)

2. ARM との最終会合議事録 (2011年1月31日)

1. Date: January 31, 2011

2. Venue: Conference Room of Department of Education, Sano Thimi, Bhaktapur

3. Participants:

[Ministry of Education]

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| 1. Mr. Janardan Nepal | Joint Secretary, MoE |
| 2. Mr. Hari Prasad Paudel | Section Officer, MoE |

[Department of Education]

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| 1. Mr. Khagaraj Baral | Director, DoE |
| 2. Mr. Hari Prasad Bashyal | Director, DoE |
| 3. Mr. Deepak Sharma | Deputy Director, DoE |
| 4. Ms. Rajya Laxmi Nakarmi | Deputy Director, DoE |
| 5. Mr. Arun Kumar Tiwari | Deputy Director, DoE |
| 6. Mr. Bishnu Bahadur G.C. | Deputy Director, DoE |
| 7. Ms. Devina Pradhananga | Deputy Director, DoE |
| 8. Mr. Balaram Timalcina | Deputy Director, DoE |
| 9. Mr. Chudamani Paudel | Deputy Director, DoE |
| 10. Mr. Damodar Acharya | Deputy Director, DoE |
| 11. Mr. Krishna Prasad Dhungana | Under Secretary, DoE |
| 12. Mr. Shankar Bahadur Thapa | Under Secretary, DoE |
| 13. Mr. Janardan Nepal | Under Secretary, DoE |
| 14. Mr. Khagaraj Paudyal | Under Secretary, DoE |
| 15. Mr. Bishnu Prasad Wagle | Officer, DoE |

[NFEC]

Mr. Balaram K.C.	Director
------------------	----------

[NCED]

Mr. Vishnu Thaiba	Executive Director
-------------------	--------------------

[RED]

Ms. Renuka Pandey	Under Secretary
-------------------	-----------------

[DEO]

Mr. Jeevan Sharma Paudel	DEO Rasuwa
Mr. Man Bahadur Chhetry	DEO Dhading
Mr. Gehnath Gautam	DEO Dolakha
Mr. Devi Prasad Subedi	Under Secretary, DEO Rasuwa
Mr. Shiva Prasad Regmi	Section Officer, DEO Dhading

Mr. Babukrishna Shrestha	Resource Person, DEO Dhading
[NGO]	
1. Mr. Nawal Kishor Yadav	Executive Director, Aasaman Nepal
2. Mr. Sanjeev Kumar Gupta	Team Leader, Aasaman Nepal
3. Mr. Dineshwor Shah	Aasaman Nepal
4. Mr. Bidur Thapa	Team Leader, SEARCH-Nepal
5. Mr. Shree Krishna Paudel	SEARCH-Nepal

[EOJ/JICA]

1. Mr. Mitsuyoshi Kawasaki	Chief Representative, JICA
2. Ms. Maiko Takeuchi	Representative, JICA
3. Mr. Krishna Lamsal	PO, JICA Nepal
4. Mr. Mitsukani Sugimoto	Chief Advisor, JICA/SHNP Project
5. Ms. Naoko Ishii	PC, JICA/SHNP Project
6. Mr. Raj Mukut Bhusal	NPC, JICA/SHNP Project
7. Mr. Narayan Shrestha	FPO, JICA/SHNP Project
8. Ms. Kusum Bista	FPO, JICA/SHNP Project

[SISM]

1. Ms. Yoko Ishida	Team Leader, SISM/JICA
2. Ms. Atsuko Tsuruta	SISM/JICA
3. Mr. Khagendra Subba	SISM/JICA
4. Mr. Bishnu Acharya	SISM/JICA
5. Ms. Anima Pathak	SISM/JICA
6. Mr. Dipendra Chaudhari	SISM/JICA
7. Mr. Subir Shrestha	SISM/JICA
8. Mr. Dinesh Shahi	SISM/JICA

4. Agenda of the Meeting:

09:45 – 10:00	Registration (Tea)
10:00 – 10:10	Opening: - Opening Remarks (by DG) - Objective of the Meeting (by DoE)
10:10 – 10:20	Briefing of the SISM Progress from February 2008 to January 2011 (by SISM)
10:20 – 10:40	Sharing from Rasuwa DEO and the partner NGO
10:40 – 11:00	Sharing from Dhading DEO and the partner NGO
11:00 – 11:15	Finding and Learning from the CP Training in Japan (by CP Training Participants)
11:15 – 11:30	Evaluation Results and Recommendations (by SISM)

11:30 – 11:50	Discussion /Clarification
11:50	Remarks from JICA Nepal Office
12:00	Closing

5. Proceedings: Agenda and discussion

Opening

Mr. Krishna Prasad Dhungana, Under Secretary, DoE conducted the SISM Final ARM Meeting. The SISM Final Annual Review Meeting was chaired by Mr. Hari Prasad Bashyal, Director, DoE. Mr. Dhungana introduced himself and participants of the meeting.

Opening Remarks from Mr. Janardan Nepal, Joint Secretary, MoE:

Mr. Nepal welcomed all the participants and highlighted on the background and importance of SISM Project in connections with Mid Term Review of BPEP II. SISM Project was conceptualised to give momentum to ‘Formula Funding’ with the vision that the schools will prepare their own planning based the local resources. The concept was piloted in five districts in the beginning and with the finding that it did good and worked out, it was later expanded to all 75 districts. Thus, School Improvement Plan came out in the surface, but lacked a lot of preparatory faults, the Formula Funding which was supposed to be the Seed Money for the school, schools prepared SIP as an instrument to get the fund from DEO which totally forgotten to mobilise the local resources. It also lacked in community participation and became a responsibility to Head teacher primarily. He commented that ‘we are good in planning, but not good in implementation’. The prepared SIP was not followed up, reviewed and updated periodically.

In such context, considering that we still need SIP to work as ‘trigger’ to start up school improvement with community participation, MoE/DoE made request to JICA to extent support, thus SISM project came out in surface. He highlighted in the Final ARM meeting:

- In CP training and other formal, informal meeting, we have time and again requested to keep continue SISM Project’s learning and ‘doable’ actions into our system,
- District colleagues, MoE/DoE should always think about the ‘sustainability’ and ‘continuity’ of the learning from the project, even it may be difficult to ‘expand’.
- From government side, we must keep continue what we have started up, what we have done ‘workable’, ‘doable’ must be continued with our full commitment.

Finally, Mr. Nepal concluded that there must be ‘minimum resources’ for the follow up actions after SISM Project to keep continue. For doing so, MoE has full commitment to provide support.

Sharing Objectives and Agenda of the meeting:

Mr. Khagaraj Baral, Director, DoE welcomed the participants in the meeting and shared the objectives as to share about the experiences, learning, challenges and recommendations of the project; and agenda of the SISM Final Annual Review Meeting as follows:

- i) Briefing of the SISM Progress from June 2010 to January 2011
- ii) Sharing from Rasuwa DEO and the partner NGO
- iii) Sharing from Dhading DEO and the partner NGO
- iv) Finding and Learning from the CP Training in Japan
- v) Evaluation Results and Recommendations of SISM project

Agenda 2: Sharing of the SISM Project Achievement from February 2008 to February 2011

Team Leader, Ms. Yoko Ishida of SISM Project presented briefly on the achievements from February 2008 to February 2011. The presentation included 1. Project purpose and Output, 2. Input, Activities and Outputs 3. Stakeholders and Impact and 4. Achievement and Learning. (Please refer to annex i.)

Ms. Yoko Ishida highlighted from the SISM Project on the achievement and learning as follow:

- ✓ 4 representatives of SMC/PTA from each pilot school were trained in the RC level ToT
- ✓ SIP updated and Annual SIP prepared by the schools
- ✓ Annual SIP implemented and reviewed, mostly no or low budgetary activities were completed
- ✓ SSs/RPs skills and knowledge improved through learning by doing, they were involved in training at the school level,
- ✓ SISM model created and proposed that there are poor networking with DEP/VEP and SIP, difficulties in monitoring, yet to have influence to policy level and no follow up to and from the non-pilot schools.

Agenda 3: Sharing from DEO Rasuwa and the partner NGO

Mr. Jeevan Sharma, DEO Rasuwa shared from his district base experiences on ‘Outputs, Good Practices and Lessons learnt from SISM Project’. His presentation covered, 1. Major activities conducted under SISM, 2. Community Mobilisation, 3. Achievements, 4. Good Practices, and 5. Challenges. (Please refer to annex ii.)

Mr. Sharma highlighted the major achievement from the SISM Project is “increased in ownership of local-level stakeholders towards school’ after the orientation and training. The training has strengthened capacity of SSs/RPs/SMCs/PTAs on SIP/VEP/DEP and Child club mobilisation. SMC/PTA members have become more aware about their roles and responsibilities, community participation, local resource mobilisation, parents and guardians

support to schools have been increased. Child clubs and Mothers Groups formed at the school level have played vital role in increasing student's enrollment and helping to reduce the drop outs from schools.

Mr. Sharma shared that the major challenges are difficulties on the regular monitoring and follow up due to fragmented and remote settlements; replication of SISM activities in other non-pilot VDCs is limited due to its phase out and still equal participation of all stakeholders at meeting/interactions is yet to be increased.

Mr. Bidur Thapa, Search Nepal, Team Leader presented from the Partner NGO of SISM Project working in Rasuwa. His presentation was based on the 'Community Mobilisation Activities during the project period May 2008 to January 2011'. The presentation covered the activities conducted such as: i. Orientation program in VDC level, ii. Coordination with DEO, DDC, VDC, VEC and schools, iii. Enrolment Campaign, iv. Child Committee Formation/updating, v. Parents Teacher Association (PTA) formation, vi. Child Committee Training, vii. Child Friendly Training and viii. Community Involvement. (Please refer to annex iii.)

Agenda 4: Sharing from DEO Dhading and the partner NGO

Mr. Man Bahadur Chhetry, DEO Dhading, presented briefly on i. SISM project in Dhading, ii. Some positive actions, iii. Best practices and iv. Suggestions. The major highlights from positive actions enlisted are: in SISM project activities, i. all RPs, SSs, SO were involved despite working in the five pilot VDCs, ii. involvement of all local stakeholders of school in SIP formation, iii. Annual SIP updating in all non-pilot schools of the district, iv. SIP review in regular meeting of SMC/PTA, v. SIP follow up at VDC level, vi. increased VDC budget in education sector, vii. DEP updating, and viii. strengthened Child Committee. (attached in annex iv.)

Mr. Chhetry's presentation on best practices highlighted that 'community participation is high on SIP formulation, implementation, review and updating; child clubs, mothers group are highly active on 'enrolment campaign, checking out the drop and student's regularity through head count', follow up visits of mothers and parents in school and its activities, regular meeting of SMC/PTA and implementation and review of SIP on VDC level and VEP review. He stressed that SISM had strong modality by involving government agency (DoE/DEO), partner NGO and development partner for effective implementation of the program

Mr. Chhetry provided suggestions to carry out 1. SIP follow up at VDC level workshop, 2. Periodic SIP review and annual SIP update, 3. VEC should take initiative to coordinate with district and schools, 4. to reduce drop out and increase learning achievement livelihood and quality education programs should be initiated, and 5. Child committee at schools should be promoted by schools and DEO.

Mr. Sanjeev Kumar Gupta, Aasaman Nepal presented social mobilisation under SISM project. He shared that major activities such as strengthening and mobilisation of mothers groups and child groups, Child Right training, Child Friendly training to school teachers, regular meeting with SMC/PTA, community groups, enrolment campaign and 'head counting of students'. These activities were carried out for raising awareness in the community for the better participation in the school management, increasing enrolment and reducing drop out of students and promoting quality education in schools for the better learning environment. (attached in annex v.)

Agenda 5: Findings and Learning from CP Training in Japan

Mr. Balaram K.C., Director, NFEC, CP Training participant in Japan, shared his experiences from Japan visit. He found that Japanese are more conscious about the time management, highly cultured and polite. He was impressed by the vocational training for young people. The training was aimed at creating job opportunities and based on the local market needs. Such as furniture produced from the trainees are sold into the local market. He thanked to JICA and people of Japan for their cooperation, good response, free and frank behaviour.

Agenda 6: Evaluation Results and Recommendations

Ms. Yoko Ishida, Team Leader, SISM Project shared briefly about the 'evaluation results and recommendation'. (attached in annex vi.)

Ms. Ishida highlighted that the evaluation carried out were End-line survey, Third Party Evaluation, Internal Terminal Evaluation, MoE/JICA Joint Evaluation. The MoE/JICA Terminal Evaluation found that the SISM project showed very high relevance in perspectives of the needs and SSRP, effectiveness is high for capacity development of schools and SMCs, SSs/RPs though coordination with VDC/DDC is not enough, efficiency is relatively high with the use of local resource and synergy, the impact is observed such as changes in pilot and non-pilot schools regarding SIP formulation, implementation, review and update have been started with greater community participation; and the sustainability of the SISM project activities are expected with program and budgetary provision with the involvement of DDC/VDC.

Ms. Ishida suggested recommendations from the experiences from SISM project. She reiterated for the continuation of the SISM model such as cascade training approach, SIP orientation and updating workshop, SS/RPs monitoring and guidance to be continued. For the forthcoming action plan of SMC capacity development, she recommended to cover the whole districts and schools within 3 years time for which NRs.80-90 million per year budget is estimated. She recommended that the follow up activities to support schools and SMCs is highly required to

visit and see the changes in the pilot and non-pilot schools of the pilot district and strengthen access to DDC/VDC fund and technical support.

Agenda 7: Discussion/Clarification

After the presentation of Ms. Yoko Ishida, MC opened the floor for the discussion and clarification. The participants and invitees raised their queries, concerns and suggestions which is summarised in the following table.

Queries/concerns/suggestions	Response
Mr. Janardan Nepal, US, DoE: “What is the difference between BPEP-II and SISM Project initiative on conducting mother’s group meeting, street drama? Was it complementary or not?”	Mr. Man Bahadur Chhetry, DEO Dhading responded that definitely the past experiences with BPEP II helped a lot in reactivating the mothers group and planning process. Those activities were inactive and through SISM project, it was reactivated in the presence of community participation.
Ms. Devina Pradhananga, DD, DoE: “SISM Project is meant for the Primary School Management. In context of primary education grade 1-5 to be upgraded and newly termed as Basic Education up to grade 1-8, how it can address the changes and ECED in its activities?”	Mr. Jeevan Sharma, DEO Rasuwa responded that ECED is being considered while preparing SIP. Mr. Deepak Sharma further elaborated that grade 1-5 is being upgraded to 1-8 as Basic Education and Rasuwa is pilot district to integrate grade 1-12 including ECED. The budget has been provisioned from this year onward.
Ms. Naoko Ishii, Project Coordinator, JICA/SHNP Project: “SISM Project recommendation says about the better coordination with DDC/VDC. We are dealing with MoE and MoHP, but faced challenges on coordination with MoLD. How we can over-come such hurdles?”	Mr. Jeevan Sharma, DEO Rasuwa shared that at the district level, the coordination among the agencies is good, but SISM highlighted that it should be emphasised more. Mr. Deepak Sharma, DD, DoE shared that without VEP and SIP, DDC/VDC will not provide the fund to the school. It is mentioned through MoLD guideline which is done through the DoE/MoE and MoLD coordination. For upper level system, there must be well coordinated effort.
Mr. Shankar Bahadur Thapa: “Now, it’s time for us to keep going the good things we have learnt from SISM during these three years. We equally need to identify the concrete measures about how to increase the enrolment and reduce the drop-out rate?”	Mr. Shiva Regmi, SO, Dhading shared that enrolment campaign, mother’s group, child committees and community gatherings are examples of increasing enrolment and taking measures to reduce the drop out. Another example is ‘head counting’ of the students and mobilising peers to bring them again to school to keep continue their study.
Ms. Kusum Bista: “I think, the formation of Mother’s Group is out-side of school system.	Mr. Devi Prasad Subedi, US, DEO Rasuwa responded that Mother’s Group is not that vague term and it is

How can we continue and bring it into the school system?"	not out of the school system. It is being formed from the mothers of the students in school. They are mobilised to send their children in school, help them to provide Khaja and take positive actions for those school drop-out children.
Ms. Maiko Takeuchi: "Recently, CP Training in Japan has been conducted. How did you find coordination in school and local bodies? How program reflected into SIP can be reflected and implemented in context of Nepal?"	Mr. Balaram K.C., Director, NFEC responded that not exactly we can implement what Japanese school system and local bodies are practicing. For example, Ward Office is over all in-charge of overseeing schools under its territory. Here, under SSRP, we are also moving to strengthen SMCs, local bodies at VDC with authority to open new ECED, salary provided for Primary Schools through DDC. Mr. Deepak Sharma responded that DoE/MoE is working together with MoLD to support schools through local bodies such as SIP/VEP for funding support.
Mr. Krishna Lamsal: "We need to work out together for sharing key achievements made through SISM project to DPs and institutions. There are some possibilities to reflect into the policy level."	
Mr. Khagaraj Paudel: "I think, we may not be able to keep continue the full scale of the SISM Project way put on inputs to carry out the activities in the district. But, schools are capable of doing SIP formulation of their own with their resources and government fund."	

Agenda 8: Remarks from JICA Nepal Office

Mr. Misuyoshi Kawasaki, Chief Representative, JICA Office Nepal highlighted on his remarks on the SISM Final Annual Review Meeting. He shared that SISM Project has been rated as the best JICA practices with the Evaluation Department of JICA Headquarter. He further shared, "We all agree that SISM project is one the most important intervention for JICA under MoE/DoE/DEO collaboration. I have visited DEO and school in Dhading in last December. I have found that the RPs has the key role and it is highly important." Mr. Kawasaki highlighted that 'for the SISM model to continue and future SISM project, it must be examined and revised under the capacity development plan framework in SSRP and school based management. But, the essence of SISM work is still relevant in SSRP. JICA is considering positively to find out ways to make SISM follow up and support in SSRP implementation process.' Finally, he thanked all the participants and stakeholders for making SISM project as the best practice and for its grand success.

Closing:

Mr. Hari Prasad Bashyal, chair of the meeting summed up on the presentations and expressed opinions by the participants in his closing remarks. Mr. Bashyal shared that 'SISM project has played a positive roles to meet its goals and support at the school level especially working with child clubs, mothers group, school visit, training on SIP/VEP and DEP and encouraging community participation in school management. The training has enabled to SMC/PTA to take

active roles and responsibilities.’ He further highlighted that “It is good to know that other neighboring VDCs are also demanding to expand the SISM activities into their schools. DoE/DEO will keep continue the efforts from the regular activities and with futher collaboration and coordination with MoLD and respective agencies to keep going of school level activities such as SIP at school and school health and nutrition. He thanked all the participants and JICA members for actively taking participation in the meeting.”

The meeting was adjourned at 12:15 p.m.

添付資料 1 5 : 収集資料リスト

No.	題名(原題)	英文名	出版社	出版日	言語	オリジナルまたはコピー	キーワード
1	सेरोफेरो पढ्छौ यसरी	We read surroundings like this	HMG-Ministry of edu and sports/ UNICEF/World Education		Nepali	Original	Reading from the surroundings
2	A progress report on : Development of Village Education Plan (VEP) under the Community-Based alternative Schooling Project (CASP)		Aasaman Nepal		Nepali, English	Report	
3	Japanese Technical Cooperation for the CASP (April 2007- January 2008)		IC Net Limited	Mar-08	English	Report	
4	CASP Community mobilization under CASP (April- September 2007)		Intergrated Community Development Campaign ICDC- Nepal, Dhading		English	Report	
5	CASP Community mobilization under CASP in Dhading (April 2007- February 2008)		ICDC Nepal, Dhading		English	Report	
6	Semi- annual report of community mobilization for ASP/ School out reach program (May - October 2007)		Jharana Bhattarai/ Global Action Nepal	2-Jan	Nepali, English	Report	
7	Final Financial Report of Community Mobilization for flexible schooling program (FSP) (May 2007- February 2008)		Volunteers Initiative Nepal (VIN)	2-Mar-08	English	Report	
8	Final Report of Community Mobilization		PIRE Center		Nepali, English	Report	

No.	題名(原題)	英文名	出版社	出版日	言語	オリジナルまたはコピー	キーワード
9	Final Report of Community mobilization for flexible schooling program (FSP) (May 2007-February 2008)		Forum for Social Enlightenment- Nepal (FORSE Nepal)		English	Report	
10	A Final Report on Community mobilization components		Resouce center for child and women development	10-Feb-08	English	Report	
11	Final report of community mobilization for SOP Program-Sundarijal VDC, Kathmandu (April 2007- February 2008)		Women Self reliance and Empowerment center (WSEC)		Nepali, English	Report	
12	Final report of community mobilization for SOP Program-Talku, Kathmandu (April 2007-February 2008)		Mahila Sarokar Kendra (MSK)		Nepali, English	Report	
13	Final report of community mobilization activities of FSP, Gangabu, Kathmandu (March 2007- February 2008)		Volunteers Initiative Nepal (VIN)	2-Mar-08	Nepali, English	Report	
14	Final report of flexible schooling program (FSP) at Sarbesor Primary School, Palpakot, Koteshwore		Society for Integrated Development (SID)	29-Feb-08	Nepali, English	Report	
15	विद्यालय व्यवस्थापनमा हाम्रो दायित्व	Our responsibility on school management	Danida/ World Education/ UNICEF/ HMG- Ministry of edu and sports		Nepali	Original- book	1. School mgmt, 2. SIP, 3. ways of increasing school's income, 4. accounts mgmt in school
16	Dhading in Map: Accessibility, Natural resources application, service center and poverty map		GIS Unit/DIDC, Office of District Development Committee, Dhading		English	Original- book	
17	Flash II report 2062 (2005-06)		GoN- Ministry of Edu and Sports, DOE	Oct-06	English	Original- book	

No.	題名(原題)	英文名	出版社	出版日	言語	オリジナルまたはコピー	キーワード
18	Gender Mainstreaming in Education: A reference manual for governments and other stakeholders		Commonwealth Secretariat	Jun-99	English	Original- book	
19	Flash I report 2063 (2006-07): Percentage of girls' enrolment of primary level		GoN- Ministry of Edu and Sports, DOE	Dec-06	English	Original- book	
20	Flash I report 2064 (2007-08): Share of girls and boys in enrolment and GPI by social groups at primary level		GoN- Ministry of Edu and Sports, DOE	Dec-07	English	Original- book	
21	Flash II report 2063 (2006-07): Percentage of dalit enrolment at primary level, flash II 2006-07		GoN- Ministry of Edu and Sports, DOE	Aug-07	English	Original- book	
22	हाम्रो पुस्तकालय	Our Library	UNICEF/World Education/GoN- Ministry of edu and sports		Nepali	Original- book	About the library and its use
23	सबैका लागि शिक्षा-सुनिश्चितताका लागि विद्यार्थी भर्ना अभियान तथा विद्यालय स्वागत कार्यक्रम, सहयोगी पुस्तिका २०६५	Education for all- Campaign for enrollment of students and school welcome program, handbook 2065	GoN- Ministry of Edu and Sports, DOE		Nepali	Original- Handbook	1. Strategy for organizing programs, 2. Edu for all campaign, 3. committee mgmt, 4. program monitoring
24	बालबालिकाले मन पराउने विद्यालय	School loved by all childrens	GoN- Ministry of Edu and Sports/ UNICEF/World Education/Danida		Nepali	Original- book	1. Classroom mgmt, 2. teaching training, 3. our library, 4. evaluation of student's learning
25	सबै बालबालिकालाई विद्यालयमा स्वागत	Welcome to all childrens in school	GoN- Ministry of Edu and Sports/ UNICEF/World Education/Danida		Nepali	Original- book	1. Committee mapping, 2. welcome to all childrens in school, 3. birth registration and students enrollment

No.	題名(原題)	英文名	出版社	出版日	言語	オリジナルまたはコピー	キーワード
26	गुणस्तरीय शिक्षा स्रोत सामग्री	Quality Education: source material	GoN- Ministry of Edu and Sports/ UNICEF/World Education/Danida		Nepali	Original- book	
27	विद्यालय अनुदान कार्यान्वयन निर्देशिका एवम- विद्यालयस्तरीकरण फाराम	School Grants Implementation Guideline	DOE- Budget and program section	2063	Nepali	Original- book	
28	शिक्षक र पेशागत सीप विकास	Teachers and professional capacity development	GoN- Ministry of Education and Sports/UNICEF/ World Education		Nepali	Original- book	1. Role of RP on developing teaching profession, 2. duties & responsibility of school mgmt, committe & village edu committee
29	अपाङ्ग बालबालिका र विद्यालय व्यवस्थापन	Disabled childrens and school management	GoN- Ministry of Education and Sports/UNICEF/ World Education		Nepali	Original- book	1. Favorable school for all kind of childrens, 2. classroom mgmt, 3. extra activities, 4. teaching method
30	दोस्रो भाषाको रूपमा नेपाली शिक्षण	Learning Nepali as second language	GoN- Ministry of Education and Sports/UNICEF/ World Education		Nepali	Original- book	1. Contents of language learning, 2. teachers role on learning and class mgmt, 3. learning to communicate
31	धार्मिक विद्यालय मूल प्रवाहमा कसरी	Hows the religious school on main flow	GoN- Ministry of Education and Sports/UNICEF/ World Education		Nepali	Original- book	1. types of school, 2. process of organizing school
32	नेपाली, कक्षा २-५ (शिक्षक स्रोत सामग्री)	Nepali, class 2-5 (Teachers souce material)	GoN- Ministry of Education and Sports/UNICEF/ World Education		Nepali	Original- book	1. poems, 2. stories, 3. conversation, 4. essay
33	गणित, कक्षा २-५ (शिक्षक स्रोत सामग्री)	Mathematics, class 2-5 (Teachers	GoN- Ministry of Education and Sports/UNICEF/ World		Nepali	Original- book	1. graph, 2. measurement, 3. add, 4. card game

No.	題名(原題)	英文名	出版社	出版日	言語	オリジナルまたはコピー	キーワード
		source material)	Education				
34	सामाजिक शिक्षा, कक्षा २-५ (शिक्षक स्रोत सामग्री)	Social Science, class 2-5 (Teachers source material)	GoN- Ministry of Education and Sports/UNICEF/ World Education		Nepali	Original- book	1. we, our family and neighbour, 2. social awareness, 3. national tradition, 4. geographical study
35	विज्ञान, कक्षा २-५ (शिक्षक स्रोत सामग्री)	Science, class 2-5 (Teachers source material)	GoN- Ministry of Education and Sports/UNICEF/ World Education		Nepali	Original- book	1. introduction and use of science's instruments, 2. balance diet, 3. solar eclipse and lunar eclipse, what and how
36	हामी पढ्छौं यसरी	We read like this	GoN- Ministry of Education and Sports/UNICEF/ World Education		Nepali	Original- book	1. making books, 2. developing drawing and writing skill, 3. project work, 4. studing loudly and silently
37	नेपाली पढ्छौं यसरी	We read nepali like this	GoN- Ministry of Education and Sports/UNICEF/ World Education		Nepali	Original- book	1. Introducing words through games, pictures and surroundings
38	गणित पढ्छौं यसरी	We read mathematics like this	GoN- Ministry of Education and Sports/UNICEF/ World Education		Nepali	Original- book	1. Reading add and sub through different games and songs
39	विद्यालय सुधार योजना, सहयोगी पुस्तिका	School Improvement Plan, Handbook	GoN- DOE, Ministry of edu and sports	2005	Nepali	Original- book	1. SIP, 2. SIP making process, 3. Process of evaluating SIP, 4. VEP

No.	題名(原題)	英文名	出版社	出版日	言語	オリジナルまたはコピー	キーワード
40	Performance evaluation of districts (Fiscal year 2062/63)		Public health administration, monitoring and evaluation division, Ministry of Health and Population	2064 Jestha	English	Original- book	1. use of financial indicator, 2. top ten and bottom ten districts, 3. evaluation method, data analysing and evaluation process
41	Unequal Citizens: Gender, caste and ethnic exclusion in Nepal- summary		DFID/ The World Bank		English	Original- book	1. Poverty outcomes, 2. Legal exclusion, 3. public discourse and actions, 4. inclusive service delivery
42	Improving lives for children and women in Nepal- Decentralized action for children and women (DACAW)		GoN- Ministry of local development/ UNICEF		English	Original- book	1. Introduction of DACAW and its strategy, 2. mission of UNICEF and HIV/AIDS awareness
43	Finding Hope in troubled times: Education and protection for children in Nepal		Save the children Norway and USA- Nepal	2007	English	Original- book	1. stress, vulnerability and resilience, 2. school programs, 3. discrimination, 4. edu in a time of conflict
44	District profile of Nepal 2007-08 (A socio- economic development database of Nepal)		Intensive study and research centre		English	Original- book	1. National Profile
45	Three year interim plan (2007/08 - 2009/10)		GoN- National planning commission	Dec-07	English	Original- book	1. good governance, 2. infrastructure development, 3. social development, 4. peace process and inclusive development

No.	題名(原題)	英文名	出版社	出版日	言語	オリジナルまたはコピー	キーワード
46	स्थानीय निकायको ऐन/नियमको सङ्ग्रह, स्थानीय स्वायत्त शासन ऐन, २०५५, स्थानीय स्वायत्त शासन नियमावली, २०५६, स्थानीय निकाय आर्थिक प्रशासन नियमावली, २०६४	Compilation of Local Organizations Acts/ Rules/ Regulations (Local Self Governance Act 2055, Local Self Governance Rules and Regulations 2056	K.P. Bhandari	2064	Nepali	Original- book	
47	Guidelines for improving your skills in project proposal writing, report writing, report presentation		Singha Raj Upreti	Aug-02	English	Original- book	1. Presentation skills, 2. Report writing skills, 3. Project proposal
48	Fundamentals of monitoring and evaluation		Singha Raj Upreti	Jun-07	English	Original- book	1. Introduction, importance and designing monitoring and evaluation, 2. training context, 3. public officials understanding
49	Ratna English- Nepali pocket dictionary		Shyam P. Wagley	2002	Nepali, English	Original- book	
50	Ratna's Nepali English Nepali Dictionary		Prof. Babulall Pradhan	2004	Nepali, English	Original- book	
51	नेपालमा शिक्षा योजना: अवधारणा तथा प्रयोग पुस्तिका २०६४	Education plan in Nepal: Concept and handbook 2064	GoN- Ministry of Education and sport		Nepali	Original- book	1. Education plan 2. Development plan 3. Process and method of education plan
52	Girls education st a Glance		unicef	2064	english	original - book	

No.	題名(原題)	英文名	出版社	出版日	言語	オリジナルまたはコピー	キーワード
53	The move to programme based approaches: An effective partnership for girls education		Ted freeman Gos Gilroy Inc	2006	English	Original - book	
54	Educating Girls in South Asia Promising Approaches		Barbara Herz	Mar-06	English	original - book	
55	Reaching the girls in south Asia: Differentiated Needs and Responses in Emergencies		Alexandra Mathieu	Mar-06	English	original - book	
56	Measuring Gender Inequality in Education in South Asia		Elaine unterhalter	Oct-06	English	original - book	
57	Addressing social and Gender Disparity in south Asia through SWAps and PBAs in education		Amanda Seel	Oct-06	English	original - book	
58	From parity to Equality in Girls Education: How are we doing in South Asia?		Els Heijnen - Maathuis	Jun-08	English	original - book	
59	poverty and Economic Vulnerability in South Asia: Does it impact Girls' Education		Eshya Mujahid - Mukhtar	Jun-08	English	original - book	
60	Gender Mainstreaming Does it happen in education in south Asia		Chandra Gunawardena Swarna Jayaweera	Jun-08	English	original - book	
61	progress in Girls' Education : The Chaallenge of Gender Equality in south Asia		Sarah Huxley	Jun-08	English	original - book	
62	Beyond Gender ; Measuring Disparity in South Asia Using an Education Parity Index		Friedrich huebler	Jun-08	English	original - book	
63	Health and Girls' Education in south Asia : An Essentail synergy		Vimala Ramachandran	Jun-08	English	original - book	

No.	題名(原題)	英文名	出版社	出版日	言語	オリジナルまたはコピー	キーワード
64	सामुदायिक विद्यालय सफलताका पाइला हरू	Community schools : steps for success	Balanand poudel	2065	Nepali	original - book	
65	नेपालमको शिश्रामा लैङ्गिक समानताको मापन	Measurement of gender equality in education	Kathmandu Education Foundation	2006	Nepali	original - book	
66	लैङ्गिक समाविकासका लागि बालिका शिश्राको रणनीति तथा कायान्वयन योजना	stragecy and action in girls education for gender development	DEO Sanothimi , Bhaktapur	2064	Nepali	original - book	
67	Membership Report		Association of International NGOs in Nepal	2008			